

政策協議會시리즈10

1982. 2

食糧増産 計劃과 그 方案

韓國農村經濟研究院

빈

면

目 次

'82 食糧増産計劃	
I. '81 食糧増産施策 反省	2
II. '82 食糧増産計劃	5
III. 營農資材 및 資金供給計劃	36
IV. 食糧増産 事業費 支援	37
V. 主要 事業計劃 推進日程	38
討 議	41
附 錄	
1. 「食糧増産施策에 관한 協議會」開會辭	78
2. 参加者 名單	81

빈 면

'82 食糧増産計劃

82 풍년 농사 결의

목 표

마지기당 벼 한 가마 더 생산

- 신품종 한 필지 더 심기
- 평당 모 10 포기 더 심기
- 모내기 5일 앞당기기
- 병충해 전염원 일찍 없애기
- 비료 알맞게 제때 주기
- 농토 배양으로 땅심 높이기
- 기상재해 미리 막아내기

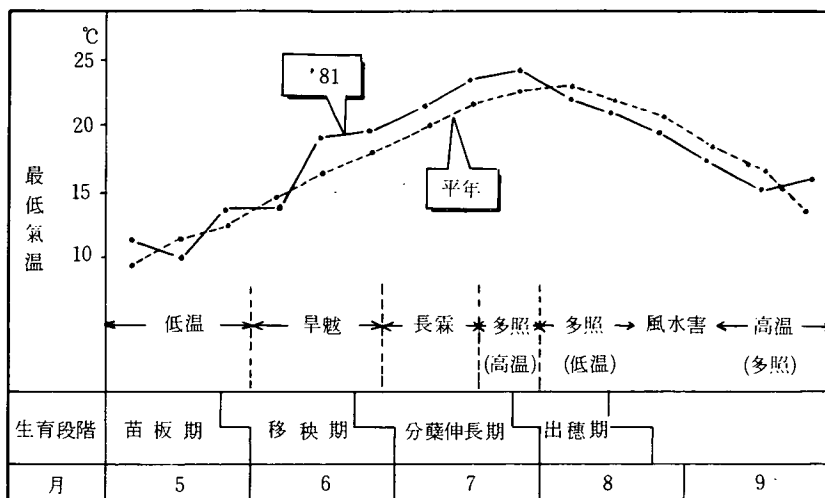
I. '81 食糧増産施策反省

1. 生産実績

	'81 計 劃 (A)		'81 実 績 (B)		對 比 (B/A)
	千 ㉿	千 石	千 ㉿	千 石	
合 計	7,517	53,129	6,915	48,876	92 %
米 穀	5,472	38,000	5,063	35,160	93
麦 類 (大稈麦)	1,078 (976)	7,816 (7,073)	919 (771)	6,661 (5,585)	85 (79)
豆 類 (大 豆)	306 (249)	2,255 (1,842)	315 (257)	2,298 (1,903)	103 (103)
薯 類 (甘 藷)	474 (98)	3,700 (805)	455 (111)	3,546 (907)	96 (113)
雑 穀 (옥수수)	187 (169)	1,388 (1,253)	163 (145)	1,211 (1,077)	87 (86)

2. 營農條件

가. 氣象條件



나. 營農條件

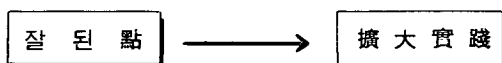
好條件

- 增產基盤造成擴大 (730 億원)
- 苗板期 貯水率 良好 (92%)
- 後期氣象好調 (溫度, 日照)
- 營農資金 및 資材適期供給 (3,894 → 5,628 億원)

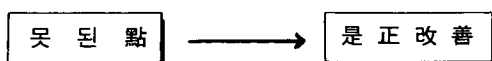
惡條件

- 苗板期 低温 (3 次)
- 移秧期 旱魃 (30 日間)
- 分蘖伸長期 長霖 (15 日間)
- 登熟期 風水害 (颱風 2 回)

3. 營農反省



- 品種 選擇의 自律化：展示圃 設置（4,675 個所）
- 適地 適品種配置：市郡別 地帶別 適品種 栽培告示
- 農士培養 10 個年計劃着手：諸要因 → 綜合改良
- 各種演示大會開催로 時限營農實踐：못자리 및 모내기 促進（5 日）
- 全苗板 珪酸質肥料施用：無病健苗育成（病害虫初期撲滅）
- 常習地調查集中管理카드化（58 千 ha）伝染源飛散防止
- 氣象災害事前事後對策徹底：冷害，旱魃，風水害克服



- 一般品種 偏重栽培：（'80）50 → （'81）73 %
- 畝栽植株數確保未洽：（'78）81 → （'81）74 株／坪
- 機械移秧 集團育苗不實：立枯病發生，弱少苗 移秧
- 保溫苗板馴化作業未洽：低溫 및 高溫障礙 招來
- 農士培養技術의 一部不足：客土不適正，벼짚 施用 遲延
- 適期適量施用未洽：施肥量減少（穗肥，実肥 施用抑制）
- 田作物栽培面積 確保未洽：栽培忌避（収益性 低調）

Ⅱ. '82 食糧増産計劃

1. 増産目標

	'82 計 劃 (A)		'81 実 績		對 比 (A/B)
	千 ㄱ	千 石	千 ㄱ	千 石	
計	7,387	52,205	6,915	48,876	107 %
米 穀	5,472	38,000	5,063	35,160	108
麦 類	909	6,593	919	6,661	99
(大 稈 麦)	(741)	(5,372)	(771)	(5,584)	(96)
豆 類	319	2,323	315	2,298	101
(大 豆)	(259)	(1,919)	(257)	(1,903)	(101)
薯 類	501	3,902	455	3,546	110
(감 자)	(108)	(883)	(111)	(907)	(97)
雜 穀	186	1,387	163	1,211	114
(옥 수 수)	(169)	(1,252)	(145)	(1,077)	(116)

2. 重点施策

——食糧増産施策의 最優先推進——

- (1) 優良品種의 積極的 開發과 適地 適品種 配置
- (2) 科学營農技術의 開發과 普及促進
- (3) 病虫害 綜合防除體制 確立
- (4) 適期適量施肥로 健全生育 図謀
- (5) 綜合農士培養으로 増産基盤 構築
- (6) 農作物 災害事前後對策 強化
- (7) 밭作物増産과 遊休農地 生産化
- (8) 農業機械共同利用促進 및 事後奉仕 強化
- (9) 地域单位 特殊營農의 積極的 開發 普及
- (10) 誠実營農을 위한 制度的 施策 講究

3. 段階別 營農推進 計劃

段 階 別	營 農 計 劃	期 間
1 段 階	營 農 準 備	1. 1 ~ 3.31
2 段 階	못자리 設置	4. 1 ~ 5.10
3 段 階	모내기, 보리베기	5.11 ~ 6.30
4 段 階	病虫害 防除, 풀베기	7. 1 ~ 9.20
5 段 階	벼베기, 보리播種	9.21 ~ 11.20
6 段 階	農士培養, 麥類越冬管理	11.21 ~ 12.31

- 地域実情을 勘案하여 特殊施策 開發實踐
- 營農期間中 増産要員을 集中動員投入하여 地域担当 責任指導
- 營農循期와 時限營農基準에 依한 段階別 營農 推進 強化

4. 事業実践要領

가. 米穀増産

(1) 計 劃 量

	面 積	段 収	生 産 量	
			千 ㄔ	千 石
合 計	千 ha 1,212.3	kg 452	5,472.0	38,000
서 울	2.4	387	9.3	65
釜 山	3.4	415	14.0	97
大 邱	4.2	423	17.7	123
仁 川	2.4	403	9.7	67
京 畿	175.5	437	762.5	5,295
江 原	55.3	393	217.3	1,509
忠 北	77.8	450	350.0	2,431
忠 南	173.6	463	803.7	5,581
全 北	166.6	470	783.0	5,438
全 南	207.4	460	954.0	6,625
慶 北	191.1	468	894.0	6,208
慶 南	152.7	428	653.5	4,538
濟 濟	0.9	367	3.3	23

※ 統一系 品種栽培 目標：606 千 ha (20,070 千名)

(2) 適地適品種 配置

(가) 推進方向

- 耐災害 多収性 優良品種 積極開發 普及
- 適地適品種 栽培告示呈 安全營農 誘導
- 統一系外 一般系 品種 適正普及比率 栽培 啓導

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 優良品種 開發 普及	○ 耐災害性 優良 遺伝子源 導入 活用：1,850 系統 ○ 統一系外 一般系 品種 種子 增殖 並行 ○ 優良 種子의 體系的 供給：12,765 ㄲ
○ 適地適品種 配置	○ 地帶別 市郡別 適品種 栽培告示 (1 - 3 月) ○ 災害 常習地 耐災害性 品種 積極 配置 (101 千ha) ○ 非奨励品種 栽培 一掃 (89 千 ha)
○ 多収性 新品種 栽培擴大	○ 統一系外 一般系 多収性 新品種 栽培 擴大 ○ 統一系 品種 適地擴大 栽培 啓導 (27 → 50 %) — 統一市 集團栽培 先導部落 育成：1,500 個 (邑面當 1 個) — 多收穫 先導 農家育成：35 千農家 (里洞當 1農家) — 統一市 우선 収買原則 堅持
○ 品種選択 自律 化 誘導	○ 品種比較 展示園 設置：4,359 個所 (邑面當 3個所) ○ 冬季 農民教育 (2,000 千名) 및 品種特性弘報 強化

(2) 育苗技術提高로 無病健苗 育成

(가) 推進方向

- 못자리 早期設置 積極 啓導
- 保溫 못자리 擴大 設置
- 苗板 珪酸質 肥料 및 粒劑農藥施用 強化

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 못자리 早期 設置	○ 地帶別 毛作別 適期 指定部落에 通報 ○ 保溫못자리 設置 示範 演示大會 開催 ○ 通水計劃 事前 樹立 通報로 適期設置 誘導 ○ 用水不足 및 旱魃地域 集團 共同못자리 設置 勸裝
○ 保溫 못자리 擴大 設置	○ 全苗板 保溫 못자리 設置 (特殊 2毛作地帶 除外) ○ 保溫 못자리用 P.E필립 供給擴大: 15.1 → 16.7 % ○ 山間高冷地 保溫 발 못자리用 비닐하우스 設置(400棟)
○ 健苗育成	○ 全苗板 珪酸質 肥料 및 粒劑農藥 施用 強化 ○ 保溫苗板 通風 馴化 作業 指導 徹底 - 通風馴化作業 비닐 操作方法 開發 普及 (農振庁) ○ 耕地整理地區 못자리 設置 指導 確認 (122 個所) ○ 豫備못자리 段階別 設置 義務化

(4) 適期移秧으로 時限營農 實踐

(가) 推進方向

- 時限營農基準 啓導強化
- 모내기用水 事前確保 徹底
- 適正栽植株數 確保

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 適期 移秧 促進	○ 모내기 5日 앞당기기 運動展開 ○ 農組畚 通水計劃 事前通報로 適期 移秧 促進 ○ 移秧期 營農作業 體系 確立 － 1毛作 移秧 → 보리刈取 → 2毛作移秧 → 보리脫穀 ○ 移秧遲延對象 農家調査 → 移秧日字 通報
○ 모내기用水 事前 確保	○ 農閑期 小規模 水利施設 積極開發 (들샘, 沕 등) ○ 天水畚 논물가두기 運動展開 (논두렁 補修, 貯水畚 設置 등) ○ 2毛作地 1毛作畚 越畚給水對策 講究 (送水호스利用)
○ 適正栽植 株數 確保	○ 坪當 벼 10株 더 심기 運動 展開 (70~75 → 80~85株) ○ 新規 規格못줄 供給: 166千組 (160百萬원 補助) ○ 農家保有 既存못줄 点檢 整備 (2~3月) ○ 請負 모내기 作業團 重點管理 (주인 못줄잡기 캠페인 展開) － 適正 株數確保 協約 誘導 (規格못줄 使用 義務化)

(5) 機械移秧 栽培 技術 定着化

(가) 推進方向

- 箱子 育苗技術提高로 健苗育成
- 機械移秧 共同利用 団地 造成
- 移秧機 操作技術 教育 強化

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 育苗技術 提高	○ 機械移秧 栽培 適地 厳選 - 統一系：中北部 標高 150 m 以下，南部 200 m 以下 - 一般系：中北部 標高 200 m 以下，南部 250 m 以下 ○ 箱子育苗 立枯病 防除用 農藥 支援 (171 百萬원 補助) ○ 機械移秧 育苗 床土 規格化 檢討
○ 集團育苗	○ 郡單位 示範 育苗場 設置：139 個所 (郡當 1 個所) ○ 마을單位 共同 利用団地 組織 擴大 (1,113 → 2,131 個所) ○ 새마을靑少年 機械化 營農團 育成 重点 活用
○ 移秧作業 改善	○ 移秧機 操作技術教育 強化 ○ 委託，共同利用機械 操作者 適正株數確保 協約 誘導 ○ 整地作業 및 淺水 管理 履行確認 ○ 機械移秧栽培 技術教育 및 弘報強化

(6) 耕種技術革新으로 科学營農 具現

(가) 推進方向

- 適期適量施肥로 健全生育 図謀
- 適期 精密作業 徹底로 安全營農 誘導
- 適期收穫, 脱穀指導強化로 品位低下 防止

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 適期適量 施肥	○ 地帶別, 毛作別, 品種別 基追肥 比率 設定 ○ 全層施肥 重点 指導期間 設定 (4 ~ 5 月) ○ 登熟肥 適期適量 施用 指導強化 － 穗肥專用 N - K 新種 複肥開發 普及 ○ 多收穫 栽培 農家 多肥 精密農法 集中 指導 ○ 特殊地域 施肥指導強化 (災害常習地, 개간지 等)
○ 適期精密 作業	○ 벼栽培歷 作成配付 → 適期 精密作業 誘導 ○ 물管理 要領 指導強化 (中間落水, 間斷 灌水 등) ○ 피사리, 雜草除去 啓導徹底 (除草劑 施用 勸奨)
○ 適期收穫 脱穀 指導	○ 適期刈取 現場 脱穀 重点 指導期間 設定 (10 月) ○ 機械化 示範団地 콤바인, 乾燥機 등 最大活用 促求 ○ 잦은 降雨時 알곡으로 乾燥 指導 － 刈取 (小束立乾, 비닐 被覆) → 脱穀 → 乾燥 (알곡)

나. 田作物 増産

(1) 計 劃 量

	生 産 量				計
	麦 類	豆 類	薯 類	雜 穀	
計	6,593.2	2,322.9	3,901.8	1,387.1	14,205.0
서 울	—	0.9	0.5	0.2	1.6
釜 山	2.7	0.7	4.4	0.1	7.9
大 邱	20.8	0.7	0.2	0.1	21.8
仁 川	0.2	2.2	3.8	0.4	6.6
京 畿	78.0	233.6	139.7	52.5	503.8
江 原	56.9	188.8	305.1	1,046.4	1,597.2
忠 北	126.2	216.0	103.6	97.6	543.4
忠 南	469.1	316.0	178.9	17.2	981.2
全 北	533.8	180.2	335.7	16.1	1,065.8
全 南	2,526.1	466.2	1,264.5	50.4	4,307.2
慶 北	1,020.1	445.2	228.2	69.5	1,763.0
慶 南	1,469.4	204.4	704.0	24.7	2,402.5
濟 州	289.9	68.0	633.2	11.9	1,003.0

(2) 麦 類

(가) 推進方向

- 収買豫示로 栽培面積 確保
- 越冬 및 肥培管理徹底
- 麦酒麦의 契約栽培로 増産意慾 鼓吹

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 面 積 確 保	○ 目標未達面積 春播推進(2.20 ~ 3.10) : 36 千 ha ○ 새마을 營農會 共同耕作 推進 : 基金造成
○ 越 冬 管 理	○ 未出芽 및 3 葉以下 圃場重点 指導 ○ 土入 踏压 및 排水溝 設置 ○ 適期 適量追肥 施用 指導 強化
○ 機械化 省 力 栽培	○ 機械化, 団地化 推進으로 生産費 節減 － 播種, 收穫, 乾機의 共同利用 － 새마을 倉庫의 乾燥場化
○ 早 期 収 穫	○ 黃熟期刈取, 機械乾燥 誘導 ○ 對農民 弘報強化로 早期刈取 促進
○ 麦酒麦 契約 栽培	○ 契約栽培의 責任推進(行政, 農協) － 目標 : 47 千 ha (110 千 畧 収買)

(3) 豆 類

(가) 推進方向

- 輸入代替를 爲한 用途別 選択의 自給度 提高
- 栽培地域의 大團地化 推進
- 品種開發과 栽培技術의 劃期的 改善

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 自給度 提高	○ 麦後作, 果樹園 및 柔團의 間作擴大 － 논두렁콩심기運動展開등으로 面積 確保 ○ 遊休地, 空休敷地 및 野山開發地 콩栽培 誘導 ○ 優良種子生産供給 體系確立과 種子供給 擴大 ○ 優良品種 展示圃 設置(417 個所)
○ 大團地 育成	○ 郡單位 大團地造成으로 增産 및 流通體系 確立 ○ 콩나물콩, 팔, 녹두等 大單位 團地造成(道當2~3個) － 營農의 集中支援
○ 耕種法 改善	○ 病虫害 防除 및 栽培技術 指導強化 ○ 適期播種 및 거름주기 運動 展開 － 콩專用 複肥 供給 促進

(4) 薯 類

(가) 推進方法

- 自給促進을 爲한 增産基盤 構築
- 감자 加工業體와 契約栽培 誘導
- 감자의 周年生産體系 確立과 主食化 促進
- 栽培技術指導強化로 収量性 提高

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 增産基盤 構築	○ 優良種薯生産供給擴大 (3.2千㏄ → 8.0千㏄) ○ 畚前作 育芽栽培 面積擴大 (3千 ha → 5千 ha) ○ 감자加工業體와 契約栽培 誘導 ○ 고구마 省力栽培技術擴大普及 ○ 고구마收買保障 (全量工業原料로 供給)
○ 周年生産 供給	○ 여름 및 가을감자 栽培面積擴大 ○ 薯類의 簡易貯藏技術普及 ○ 감자의 加工 및 主食化 指導 啓蒙 強化
○ 技術指導 強化	○ 畚前作 및 가을감자의 育芽栽培技術普及 ○ 健苗育成 및 適期挿植 指導 ○ 고구마 直播示範栽培

(5) 雜 穀

(가) 推進方向

- 新品種 옥수수 의 擴大普及
- 地帶別 合理的 作付體系確立과 安全生産 誘導
- 地域特性을 勘案한 雜穀栽培団地의 漸進的 造成

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 面 積 確 保	○ 新品種 옥수수栽培 面積擴大 (50 %→ 70 %) ○ 新品種 옥수수 示範団 設置 ○ 옥수수 集團 栽培団地 造成 (970 個所) ○ 傾斜地 및 瘠薄地 適正 雜穀栽培 誘導
○ 優良品種普及	○ 옥수수 優良種子 擴大普及 (363 %→ 400 %) ○ 優良品種의 種子生産 供給 擴大
○ 技術指導強化	○ 地帶別 合理的 作付體系 確立 － 生産性 經濟性 檢討 ○ 地域特性에 適合한 單作, 間混作栽培方法 및 栽培 技術指導 強化

다. 肥料需給과 施肥合理化

(1) 肥料需給計劃

		計	窒 素	磷 酸	加 里
計		成分% 850,000	430,000	220,000	200,000
서 울		4,065	2,107	1,078	880
釜 山		3,772	1,978	1,034	760
大 邱		2,457	1,241	623	593
仁 川		1,286	651	332	303
京 畿		90,724	45,961	23,406	21,357
江 原		53,682	26,230	14,872	12,580
忠 北		61,155	28,853	16,742	15,560
忠 南		107,424	54,524	27,720	25,180
全 北		101,201	51,557	26,444	23,200
全 南		146,619	77,185	36,014	33,420
慶 北		150,010	75,772	38,031	36,207
慶 南		99,553	53,105	24,728	21,720
濟 州		28,052	10,836	8,976	8,240

(2) 肥料需給圓滑과 施肥의 合理化

(가) 推進方向

- 適正在庫維持로 肥料需給의 圓滑化
- 適期精密 肥培管理로 健全生育圖謀
- 複合肥料 供給擴大로 3要素 均衡 施肥 誘導

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 需 給 圓 滑 化	○ 需要推定에 의한 適期 適量 供給 ○ 需給狀況 判斷으로 均衡 在庫 維持 ○ 供給方法改善：單協集中販賣 → 盛需期無休分散販賣
○ 適期精密 肥培管理	○ 作物別 品種別 施肥基準量 設定推進 ○ 複合肥料擴大供給：('81)66 → ('82) 70 % 水準 ○ 田作物 거름주기 運動 展開 － 遲効性 新種固型 複肥開發 普及 ○ 野山開發地綜合施肥 重点指導 (3 要素 + 石灰 + 堆肥)
○ 對農民指導 強 化	○ 肥効示範圃 擴大設置 (1,500 個所) － 干拓地 (石膏), 冷害地 (磷酸), 普通畚 (全層施肥) ○ 葉色 Color Chart 作成 配付

라: 病蟲害 防除

(1) 病虫害 防除計劃

		防 除 計 劃			防除比率
		計	苗 板	本 畝	
合 計		千 ha 10,542.7	202.0	10,340.7	% 869
病	小 計	5,845.9	119.4	5,726.5	482
	稻 熱 病	4,140.0	83.1	4,056.9	341
	紋 枯 病	1,082.1	—	1,082.1	89
	白 葉 枯 病	617.4	29.9	587.5	51
	其 他	6.4	6.4	—	—
虫	小 計	4,696.8	82.6	4,614.2	387
	벌 子 類	1,675.7	—	1,675.7	138
	(벼 벌 子)	(1,304.3)	—	(1,304.3)	(108)
	二化螟虫, 其他 (二化螟虫)	3,021.1 (1,904.3)	82.6 (2.9)	2,938.5 (1,901.4)	249 (157)

(2) 病虫害 伝染源 初期 撲滅

(가) 推進方向

- 種子 및 苗板의 病虫害 防除 徹底
- 病虫害 發生 常習地의 綜合管理 對策 講究
- 收穫期 새로운 病虫害의 積極的 防除

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 苗 板 防 除	○ 苗板設置前 珪酸質 肥料施用 義務化 (68 千 ha) ○ 種子消毒, 苗板防除徹底로 健苗育成 － 粒劑農藥 및 苗立枯病 農藥代 支援 (812 百萬원)
○ 常習地重點管理	○ 常習地 카드化 重點管理 : 35 千 ha (6 千個所) ○ 綜合防除 對策推進으로 發病要因 極少化 － 秈稻熱病 農藥代 支援 : 17 千 ha (212 百萬원) ○ 大單位 綜合防除 示範團 設置 (16 個所)
○ 新病虫害防除徹底	○ 收穫期 새로운 病虫害 防除 徹底 － 稻麴病 : 防除新農藥開發 － 紋枯病 : 出穗期 秈稻熱病과 同時共同防除 － 黑條萎縮病 : 本畚初期 浸透性 殺虫劑로 애벌레防除

(3) 綜合防除體制的 定着

(가) 推進方向

- 綜合防除體制 確立으로 災害 豫防
- 早期 精密 豫察 및 豫察情報의 効率性 提高
- 防除組織 育成強化로 適期同時共同防除 誘導

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 綜合防除 體制 確立	○ 綜合防除 體制的 定着化 － (耐病虫性) + (農土) + (環境) + (農藥) 品種普及 培養 改善 撤布
○ 早期精密 豫察	○ 豫察要員의 專門化 및 委囑 豫察要員 活用 ○ 正確한 豫察情報 發表 － 警報 發表時 民防衛隊 動員
○ 防除組織 強化	○ 既存共同防除團 組織 內実化(32 千個團) － 用役費 支援(568 百萬圓) ○ 새마을 靑少年 用役防除團 組織 擴大 － (’81) 283→(’82) 1,460 個團(邑面當 1 個所) ○ 防除機具支援供給으로 防除基盤 造成 － 供給計劃: 6 千台(22 億圓 支援) ○ 豫防為主의 同時共同防除로 防除回數 減少 － 優秀 混合劑 農藥開發 普及

(4) 農藥管理制度 改善

(가) 推進方向

- 農藥의 需給 圓滑로 農民 不滿解消
- 農藥品質 管理強化로 藥効提高
- 安全使用 對策 推進으로 公害 防止

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 農藥需給 圓滑	○ 마을單位現場 供給強化→새 마을 營農會長 手當支給 ○ 突發 病虫害 對備原劑 및 完製品 備蓄 ○ 農協・市販農藥 價格競争 解消 誘導
○ 農藥品質 管理 強化	○ 檢査物量 및 團束要員擴大 任命：1,000→3,000點水準 ○ 農藥檢査強化：藥効不良農藥 果敢司 淘汰
○ 農藥安全 使用 對策	○ 農藥安全使用 對策 強化 － 農藥 安全教育 實施(40千名) － 農藥誤用 防止：섀크印刷, 除草劑명 区分製作 － 改良마스크 및 解毒劑 供給(里洞當 20~30個) ○ 農藥殘留實態調查 強化(調查週期5→1~2年) ○ 農藥빈병 回收 徹底(重點期間 設定 推進) ○ 農藥 安全使用 弘報活動 強化(公聽會, 座談會)

마. 農 土 倍 養

(1) 事業計劃

	벼질갈기	深 耕	綠肥栽培	集團客土	堆肥増産	土 壤 改 良 劑	
						石 灰	珪酸質
計	千ha 750.0	750.0	34.9	66.7	千ㄲ 33,000	千ㄲ 300.0	300.0
서 울	0.5	2.0	—	—	100	0.1	0.2
釜 山	0.5	2.0	—	—	100	0.1	0.3
大 邱	0.5	2.1	—	—	140	0.4	1.0
仁 川	0.5	1.8	—	—	60	0.2	0.5
京 畿	110.0	110.0	4.3	8.7	4,540	35.1	40.0
江 原	30.0	30.0	2.1	3.5	2,600	18.7	16.0
忠 北	50.0	50.0	2.5	7.0	3,000	21.7	18.0
忠 南	103.0	103.0	4.5	8.5	4,400	40.1	41.0
全 北	100.0	100.0	5.1	8.0	3,600	36.9	41.0
全 南	134.0	134.0	6.3	11.0	4,800	54.6	51.0
慶 北	131.0	131.0	5.3	11.0	6,060	53.2	51.0
慶 南	90.0	84.0	4.6	9.0	3,200	36.4	40.0
濟 州	—	0.1	0.2	—	400	2.5	—

(2) 農士培養으로 增産基盤 構築

(가) 推進方向

- 벼 뒷그루 안보이기 運動의 積極的 展開
- 綜合的 農士培養의 定着化
- 土壤 改良劑의 供給體系 改善

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 벼 뒷그루 안보이기	○ 農閑期 새마을 生産事業과 連繫 推進 － 벼짚施用, 客土, 深耕等 實施로 빈땅없애기 展開 ○ 벼 收穫前 胡麦 間作 綠肥栽培 擴大 ○ 客土事業 擴大 實施 － 融資金: 208 → 280 億원 (償還期間 1年 → 1年6月) － 그린벨트內 客土源 採取許容
○ 農士培養 效果 提高	○ 綜合 農士培養 演示大會 開催 (單要因 → 綜合改良) ○ 農士培養 処方書 發給 → 電算處理 (80 萬筆地) ○ 大單位 示範圃 先導部落 指定育成 (3,788 個所) ○ 農士培養事業 機資材 供給 擴大 － 벼짚 切断機: 4,380 台, 改良劑 撒布機: 1,610 台
○ 改良劑供給 體系 改善	○ 農民啓導를 통한 希望農民 供給 ○ 石灰 市·道 購買供給 體制로 兌換: 農家負擔 定額制 實施

바. 緻密한 災害對策으로 總力防災

(가) 推進方向

- 氣象災害 非常 防災 伝達 體制 構築
- 災害常習地 集中管理로 根源的 對策 講究
- 災害裝備 및 防災施設 点檢 整備 徹底

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 防災體制 確立	○ 災害 非常伝達 體制 構築 ○ 旱水害等 災害別 SOP 設定 迅速對処 ○ 災害對策 推進狀況室 設置 運營 (災害發生時)
○ 常習地 集中 管理	○ 災害常習地 管理카드作成 根源的 對策講究(101千 ha) ○ 耐災害性 品種 積極 配置 (品種配置圖 作成)
○ 機資材 点檢 整備	○ 揚水裝備 및 水利施設 点檢 整備強化 － 中央：3～4月 地方：4～5月 ○ 所要資材 定數確保 및 部品備蓄 強化
○ 農業用水 開發 擴大	○ 農業用水 10 個年 開發計劃 着手 － 水脈圖 完成과 地下水 開發 擴大 － 水利畚率提高：('81) 71→('91) 90 %

사. 誠實營農 推進

(가) 推進方向

- 誠實營農을 爲한 積極的인 啓導
- 農地의 耕作実態 調査와 技術指導 強化
- 새마을 營農團을 통한 委託營農 誘導

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 要 領
○ 誠實營農 啓 導徹底	○ 遊休豫想農地 및 不誠實 耕作者 : 耕作 指示書 發付 ○ 時限營農 不可能時 代理耕作措置
○ 耕作実態 調査	○ 農地所有者 (地主) 実態調査 - 代理耕作者 (不在地主) — - 出入 耕作者 (兼業農) — — 所在把握 ○ 不在地主 및 出入耕作者에 對한 誠實營農 指導 ○ 不誠實 營農者 代理耕作 措置
○ 委託營農 誘導	○ 새마을 機械化 營農團 委託誘導 ○ 營農會, 靑少年會, 農高, 農業團體, 委託誘導 ○ 方法 : 完全, 部分委託

아. 耕地利用度 提高 및 遊休空閑地 生産化

(가) 推進方向

- 田畝別 間混作 作付體系 確立
- 모든 遊休地의 生産化 運動 展開
- 地域 特化作目의 開發과 普及 促進

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 耕地利用度 提高	○ 耕地利用率의 向上 ('81 : 126 % → '82 : 129 %) ○ 겨울철 노닐땅 없애기運動 展開 － 冬季作物 栽培 拡大 ○ 全國 地帶別 田畝別 作付類型 設定推進 ○ 10大 戰略作目의 拡大栽培 － '81 : 433千 ha → '82 : 491千 ha
○ 遊休空閑地 生産化	○ 遊休空閑地 生産化運動 展開 (76 千 ha) ○ 對象作物 : 食糧作物, 特作, 菜蔬, 飼料作物 ○ 새마을 運動과 連繫 推進 ○ 段階別 推進 및 表彰 － 實態調査 → 作目選定 → 栽培指導 － 優秀事例 表彰으로 意慾 鼓吹
○ 特化作目 開發 普及	○ 慣行 營農 實態調査 (農振庁) － 地域 特化作目 積極 開發普及

자. 野山開發地 營農

(가) 推進方向

- 熟田化 促進을 為한 土壤改良劑 및 有機物 施用
- 營農組織 強化와 機械化 促進
- 새 마을 靑少年 營農團과의 積極的 連繫推進

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 熟田化 促進	○ 營農對象面積 確定 및 休耕時 耕作 指示書 發付 ○ 土壤分析에 依한 堆肥 및 改良劑 施用指導
○ 營農會 組織 強化	○ 營農會組織 및 共同作業 推進體系 確立 ○ 새 마을 靑少年 營農團과 連繫推進
○ 技術指導 強化	○ 콩 및 옥수수를 為主로 한 作付體系 確立 ○ 各種示範圃 設置로 技術 普及 促進 ○ 營農教育強化

차. 農業機械化 事業

(1) 農業機械 供給計劃

区 分	供 給	計 劃	融 資	條 件
	物 量	支 援 額	融 資 率	償還條件
計	千台 172.5	億 원 1,630	%	年
耕 耘 機	70.0	766	70~100	2 - 5
트 랙 터	2.0	149	80	2 - 6
移 秧 機	8.0	218	100	2 - 3
收 穫 機	7.5	175	90	2 - 5
防 除 機 等	85.0	322	70~100	2 - 5

○ 融資金利引下

- 移秧機, 收穫機: 12 % → 6 %
- 其他機種: 12 % (一般用 耕耘機 트랙터: 15.5 %)

○ 供給制度 改善

- 上半期: 農協, 業體二元化(現行)
- 下半期: 民間主導의 自由競争 販賣實施

○ 耕耘機 附着 作業機 積極開發

(2) 共同利用 促進

(가) 推進方向

- 새마을 靑少年會 中心組織 擴大
- 機台活用度 提高와 運營管理 改善
- 教育指導 및 評價分析 強化

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
組 織 擴 大	○ 새마을 機械化 營農團 設置 － '82 計劃：1,000 個所 － 所要資金支援：補助 40 % 融資 60 % － 支援機種：移秧機, 收穫機, 트랙터等 5 ~ 8 台
活 用 度 提 高	○ 遊休地 不在地主 耕作地 代理耕作 ○ 트랙터의 野山開發, 耕地整理 活用 義務化 ○ 耕地規模別 機械化 標準모델 設定指導
運 營 管 理 改 善	○ 靑少年 參與會員 教育訓練 － 管理者教育：3 千名, 技術訓練：5 千名 － 道當 2 個所 先進營農團 選定 ○ 專担 指導員 配置 指導育成 ○ 優秀事例 發掘施賞 및 成功事例集 發刊 弘報

(3) 事後奉仕 및 技術訓練 強化

(가) 推進方向

- 業體의 事後奉仕 專担 體制 確立
- 修理施設의 全無面 解消
- 運轉操作 技術訓練의 內実化

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
修 理 施 設 拡 充	○ 修理所 設置計劃 － '82 計劃： 600 個所 (新規： 300, 正規化： 300) － 所要資金支援 (新規設置)：補助 50 %, 融資 50 % － 修理施設 全無面 解消 (68 個所)
部 品 供 給	○ 部品確保資金支援： 100 億원 ○ 流通段階別 部品確保義務化 및 價格表示制
運 營 의 活 性 化	○ 單協修理센터 民營化 推進 ○ 農機械 巡廻点檢整備 強化
訓 練 計 劃	○ 訓練人員： 170 千名 ○ 訓練施設 및 裝備計劃： 12 個所 (538 台)， 補助 100 %
訓 練 內 実 化	○ 農高 実科 教師 技術訓練 要員化 (年間 120 名) ○ 全指導 公務員의 訓練要員化 및 訓練教材 製作支援

카. 地域特殊營農育成普及

(가) 推進方向

- 劃一的施策推進 止揚으로 地域单位 機能活性化
- 地域與件을 勘案한 特殊營農施策開發普及
- 地域单位 營農體制確立으로 施策推進 內実化

(나) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 地域单位 機能 活性化	○ 力点施策重点示達（中央）→地域单位機能活性化(地方) ○ 事業指針 早期示達 → 施策浸透促進 ○ 一貫性있는 施策推進 → 信賴받는 農政具現 ○ 劃一的 施策推進止揚 → 地域特殊施策開發育成
○ 特殊營農 施策 開發	○ 地域单位 營農開發 → 道間特殊施策發展誘導 ○ 農民意思最大反映 → 自律營農誘導 ○ 새마을 營農會 活用強化→地域營農開發普及促進
○ 地域營農體制 確立	○ 地域特殊施策 推進事例蒐集 弘報強化 ○ 特殊營農 先導地域 比較評價會 開催（年 3回以上） ○ 先導部落 優先支援으로 地域農業育成図謀

타. 施策의 一線浸透 強化

(7) 推進方向

- 推進體制의 補強과 增産分團氣造成
- 報告體制改善으로 施策推進力 培養
- 施賞制의 擴大로 增産意慾鼓吹

(4) 實踐計劃

項 目	實 踐 事 項
○ 增産雰圀氣造成	○ 食糧增産 狀況室設置 運營(1.11 ~ 11.20) ○ 增産決意大會開催(市道, 市郡, 邑面單位로 開催) － 期間: 1~3月(豐年農事決意, 多收穫成功事例發表) ○ 地域別 營農担当 責任者編成 運營
○ 施策推進培養	○ 報告簡素化로 行政力 現場浸透強化 ○ 弘報媒體利用 活性化로 施策推進力 倍加 － 部落앰프放送 一貫弘報體系 強化 － KBS-TV等 매스컴最大 活用集中 弘報
○ 施賞制度 擴大 實施	○ 營農施策評價 強化 － 營農段階別로 評價 ○ 增産先導部落 및 優秀團體 發掘施賞擴大 ○ 農産公職者 士氣振作對策 講究

Ⅲ. 營農資材 및 資金供給計劃

- 資 材 : 充分한 物量確保, 願하는 時期供給
- 資 金 : 營農期以前 早期放出 (6,500 億원)

	P. E 필름 (%)	農 藥 (%)	石灰肥料 (千 %)	硅酸質肥料 (千 %)	化学肥料 (千 %)	農業機械 (台)
計	16.172	11.971	300.0	300.0	850.0	172,500
서 울	38	25	0.1	0.2	4.1	368
釜 山	11	30	0.1	0.3	3.8	520
大 邱	19	40	0.4	1.0	2.5	707
仁 川	5	20	0.2	0.5	1.3	420
京 畿	2,987	1,561	35.1	40.0	90.7	24,860
江 原	957	417	18.7	16.0	53.7	10,920
忠 北	1,020	710	21.7	18.0	61.1	12,850
忠 南	2,762	1,816	40.1	41.0	107.4	22,890
全 北	2,217	1,857	36.9	41.0	101.2	22,410
全 南	2,923	2,344	54.6	51.0	146.6	26,360
慶 北	2,342	1,749	53.2	51.0	150.0	24,610
慶 南	1,472	1,389	36.4	40.0	99.6	22,710
濟 州	9	13	2.5	—	28.0	2,875

- 農業目的에 符合되도록 実需要者選定 供給
- 營農資材檢査 및 流通體制 改善
- 營農教育時 希望物量 申込適期確保 供給

IV. 食糧増産 事業費 支援

事業別	事業量	事業費	財 源 別			
			国 庫	地方費	融 資	自 担
合 計		百萬元 289,591	50,726	11,862	182,633	44,370
1. 食糧増産		59,258	12,790	5,940	28,714	11,814
가. 地力増進		47,704	3,938	3,938	28,014	11,814
○ 石灰肥料	300千ㄲ	9,817	1,963	1,963	—	5,891
○ 珪酸質肥料	300 "	9,873	1,975	1,975	—	5,923
○ 集團客士	67千ha	28,014	—	—	28,014	—
나. 病虫害防除		4,852	3,376	1,476	—	—
○ 共同防除	600千ha 동동방제 500	2,952	1,476	1,476	—	—
○ 農藥資金	항공방제 100	1,900	1,900	—	—	—
다. 營農改善		3,213	1,947	526	700	40
○ 食糧増産施賞	3,451点	1,288	1,288	—	—	—
○ 벼짚切断機	4,380台	1,592	426	466	700	—
○ 規格吳耷供給	166千組	200	100	60	—	40
○ 田轉換補償	152ha	133	133	—	—	—
라. 種子更新	20,472ㄲ	3,529	3,529	—	—	—
2. 農業機械化促進	173千台	230,293	37,936	5,922	153,919	32,516

V. 主要事業計劃推進日程

	主 要 事 業 計 劃	推 進 日 程				担 當
		1/4	2/4	3/4	4/4	
米穀増産	○ 非奨励 品種 一掃	↔				行政(指導)
	○ 機械移秧 集団育苗場 設置	↔				行政(指導)
	○ 機械移秧 床土規格化 検討	↔				指 導
	○ 不良못줄 点検 整備	↔	→			指導(行政)
	○ 高冷地 保温못자리用 育苗場設置	↔				行 政
	○ 慣行 물못자리 一掃		↔			行政(指導)
	○ 豫備못자리 段階別 区分 設置		↔			行政(指導)
	○ 水利安全畚 通水計劃 樹立		↔			農組(行政指導)
	○ 벼 10株 더 심기 運動 展開		↔			行政(指導)
	○ 請負(用役)모내기作業指導班 編成配置(適正栽植 株數 協定)		↔			行政(指導)
農土培養	○ 그린벨트內 客土源 採土	↔			↔	行 政
	○ 綜合農土 培養 大單位 示範團設置				↔	行政, 指導
	○ 農土培養 先導마을 育成	↔	↔	↔		行政, 指導
	○ 干拓地 石膏 示範團 設置	↔	→			行 政
	○ 벼 收穫前 綠肥間作 栽培				↔	行政, 指導
	○ 벚짚 切断機 供給		↔			行 政
	○ 土壤 改良劑 撒布機 供給		↔			行 政
	○ 大韓通運 客土事業 參與	↔		↔		行 政
	○ 農土 培養 処方書 發給 (電算處理)			↔		農 振 庁

	主 要 事 業 計 劃	推 進 日 程				担 當
		1/4	2/4	3/4	4/4	
田 作	○ 麦類春播 推進	←→				行政, 指導
	○ 不在地主 찾기 運動 展開	←→				"
	○ 豆類自給을 為한 大田地 造成	←→				"
	○ 감자 周年生産을 為한 面積確保	←→				"
	○ 種子生産體系 改善 (種苗業體 試驗採種)	←→				"
	○ 採種段階別 種子生産供給 擴大 (땅콩, 참깨, 녹두, 油菜, 들 깨 追加)		←→			"
肥 料	○ 水稻穗肥用 N-K複肥示範供給	←→				農 協
	○ 葉色 Color Chart 製作 配付	←→				指 導
	○ 冷害地域 磷酸示範圃 設置	←→				行 政
	○ 全層施肥 示範圃 設置	←→				指 導
	○ 珪酸質肥料 示範圃 設置	←→				行 政
	○ 石灰肥料 示範圃 設置	←→			←→	"
	○ 撒布機 供給	←→				"
	○ 土壤改良劑 供給改善	←→				"

	主 要 事 業 計 劃	推 進 日 程				担 當
		1/4	2/4	3/4	4/4	
病虫害 防 除	○ 全苗板 粒剂農藥 施用		↔			行政(指導)
	○ 機械移秧 苗立枯病 防除		↔			農協(農組)
	○ 黑條 萎縮病 防除		↔			"
	○ 稻麴病, 防除方法 研究	↔			↔	指 導
	○ 混合剂 農藥 供給		↔	↔		"
	○ 웨르몬을 利用한 病虫害 防除 実用化 検討	↔			↔	"
	○ 農協과 市販農藥 自律調整	↔				行政(農協)
	○ 農協農藥을 市販農藥보다 低廉 하게 供給	↔			↔	"
	○ 農藥빈병 回収	↔			↔	行政(指導, 農協, 農組)
	○ 除草剂 병은 農藥병과 区分製作	↔	↔			行 政
農機械	○ 營農団 參與會員 決意 및 団長 委嘱	↔				行政(指導)
	○ 營農団 管理運營 教育	↔				"
	○ 先進 營農団 見学	↔				"
	○ 共同利用 評價會	↔	↔	↔	↔	"
	○ 農機械 自由競争 販賣実施			↔	↔	行政(業體)
	○ 移秧機 実證 試驗		↔			農 振 庁
	○ 農機械 点檢整備의 달 運營	↔			↔	行政(業體)
	○ 不良農機械 流通 檢査		↔	↔		行政(資檢)
	○ 農高 教師 技術訓練			↔		行政(指導)

討 議

司會(金東熙 副院長) : 農水產部の 「'82 食糧増産計劃」에 관해 자세한 브리핑을 들었습니다만 이제 이러한 増産目標을 어떻게 달성해야 하는지에 대해서 진지한 討議를 해주기 바랍니다.

金昌源(새마을 營農技術者 中央會長) : 아까 박국장님께서 여러가지 食糧増産에 관하여 말씀이 제셨습니다. 제가 농사를 짓는 한 사람으로서 여러가지를 감안하여 實情을 말씀 드리면 食糧増産이라는 것은 현재 좀 어렵다고 생각합니다. 왜냐하면 어느 사업이건 돈이 많이 벌려야 사업을 하기 때문입니다. 그런데 지난 7~8년 전부터 農民들은 賭博을 하려는 경향이 있습니다. 밭.논농사로는 돈을 많이 벌수 없으므로 特作을 한다든가 所得作目に 投資를 하여 돈을 벌려고 하고 있습니다. 82년도 食糧増産 계획과 特作農家와의 연관성은 어떻게 생각하시는지 모르지만 農民들이 賭博을 하지 않도록 유도하는 것이 중요하다고 생각합니다. 사실상 全國에 퍼져 있는 비닐 하우스도 농민들의 賭博입니다. 그중 30% 정도는 그런대로 收入을 올리고 있지만 70%는 빚만 지고 넘어갔다고 생각합니다. 그런데 農協에서 나오는 P.스틸 파이프는 어떠한 연유에서 그렇게 많이 나왔는지 모르겠습니다. 공짜라면 양젖물도 마신다고 農民들은 모두 그것을 가져다가 밭 作物보다는 食糧増産을 할수 있는 玉土에 이 스틸 파이프를 설치해 놓고 도박을 하고 있습니다. 食糧増産과 所得作目を 위해 스틸 파이프를 논에 설치하는 것과는 相反된다고 봅니다. 일부 농민들은 식량인 벼농사를 짓는데는 관심이 적어지

고 일확천금을 버는 特作에만 머리를 많이 쓰고 있다고 저는 생각합니다. 저도 그렇게 하고 있습니다. 이점을 當局은 감안하여 계획했는지 모르겠습니다. 食糧増産을 위해서는 農民이 賭博을 하지 않게끔 誘導해 나가는 것이 중요하다고 생각합니다.

82년도 계획안에는 기술교육, 홍보강화, 시범재배, 조사강화 등이 들어 있는데 이 모든것을 운영해 나가는데는 대단히 어려움이 있습니다. 따라서 일선에서 일을 하는 사람을 감안하여 모든 보고양식을 줄이고 여러가지 문제를 충분히 참작하면 일을 하시는데 도움이 될까하여 말씀드렸습니다.

朴正潤(農水産部 農産局長) : 최근 農家所得 増大를 위하여 농민들은 特用作物, 園藝作物 혹은 畜産으로 관심을 모으고 있습니다. 이것은 매우 바람직한 일이라 봅니다. 그러면 앞으로 食糧増産은 어떻게 하느냐? 食糧増産을 달성해야 하겠다는 意志에는 변함이 없다고 봅니다. 그런데 特用作物, 畜産物은 需要와 生産에도 한정이 있습니다. 需要를 초과하면 資格이 떨어집니다. 그래서 저희들도 流通情報를 보다 원활히 하기 위해서 여러 가지 대책을 강구하고 있습니다. 超過生産을 하면 園藝, 特作은 망하게 되고 오히려 쌀 농사를 짓는 것보다 못하기 때문입니다. 그래서 우리 농가의 주머니 사정이 나아지기 위해서는 適正水準에서 권장을 해야 하리라 봅니다. 그러나 쌀을 생산할 절대농지에 인삼을 재배한다든지 모포장을 만든다든지 하는것은 같은 國家事業이지만 허용되어서는 안된다고 봅니다. 금산 등 人蔘主産地는 天水畝같은 비교적 水利가 안전하지 못한 곳에 심도록 충분히 誘導하지만 水利가 안전해 쌀을 生産할 절대농지에 이런 作物을 심어 쌀 농사에 차질을 가져온다면 용납될 수 없습니다. 이러한 것은 저희들이 해결하도록 노력하겠으며 기술을 유도하겠습니다. 최근에는 農民들에게 기술을 投入하면 増産을 할 수 있다는것을 심어주는 방향으로 유도하지 강제로 行政力을 침투시키지는 않습니다. 우리의 농토는 5천년의 歷史를 가지고 있고 美國은 2백년, 日本은 2천년의 歷史를 가지고 있습니다. 우리 나라의 남부는 버

와 보리를 심고 있어 5천년의 歷史는 1만번의 농사를 지은셈이 되어 農土는 쇠퇴할대로 쇠퇴했습니다. 쇠퇴한 農土를 바로 잡는 것은 자손 만대를 위한 일입니다. 벼짚을 태우지말고 넣어라, 제량기 사용하라, 심내기 하고 객토하라는 것은 다소 무리가 가더라도 국가의 百年大計를 위한것이므로 이해해 주셨으면 합니다.

金允善 (農水産部 菜蔬課長) : 비닐 하우스를 많이 하기 때문에 食糧 増産에 많은 지장이 있다는 말씀이 계셨습니다. 菜蔬는 70년대 1인당 消費量이 60kg정도 이던것이 80년대에 들어서는 120kg으로 급증하였습니다. 특히 비닐 하우스를 利用한 新鮮菜蔬 消費가 많이 늘었기 때문에 더욱 급진적으로 늘어났다고 생각합니다. 참고로 말씀드리면 비닐하우스는 70년대에 연평균 30~40%씩 늘어났습니다만 다행히 올해는 조 사결과 상당히 둔화되어 10%정도에 그친것으로 보입니다. 그런데 과거에는 消費가 많기 때문에 農民들이 너나 할것없이 많이 재배해 왔습니다만 政府도 이것을 그대로 방치할 수 없다고 판단하였습니다. 현재 비닐하우스 중 60%가 木築材이고 40%만이 鐵材이어서 바람이 불고 눈이 오면 항상 피해가 많아 시설을 늘리기 보다는 기존시설을 철재나 표준화된 시설로 바꾸어 나아가야 겠다고 생각하여 기존시설의 代替에 주 력하고 있습니다.

所得作目이 많이 늘었다고 말씀하셨는데 아시는 바와같이 特用作物이나 菜蔬는 기후 여건에 따라 豊,凶이 심하고, 前年度 가격에 따라 農民들이 재배 면적을 급진적으로 늘였다 줄였다 하기 때문에 무엇보다도 適定生産을 誘導해야 되겠다고 생각하고 있습니다. 그래서 全國을 10大 農業圈으로 분류하고 10大 農業圈中 郡別로 農業地圖를 作成하였습니다 이렇게 하여 適地, 適作目に 團地를 만들고 그 團地에 대해서는 計劃生産으로 나아가며 특히 計劃生産을 위해서는 그 團地에 우위성을 확보해 주고 生産量을 갑자기 늘이거나 줄이지 않고 需要를 추정하여 생산하도록 계획하고 있습니다.

司會：지방에서 올라오신 代表들께서 말씀해 주시지요.

金範起(全北道 聯合會長)：食糧增産에 있어 제일 중요하다고 느끼는 것은 耕地整理라고 알고 있습니다. 현재 우리 郡만 하더라도 耕地整理 面積이 12 % 밖에 되지 않습니다. 耕地整理가 되어야만 機械를 投入시킬 수 있습니다. 政府에서는 機械化를 권장하고는 있지만 耕地整理가 되어있지 않아 機械를 投入하지 못하고 있는 실정입니다. 그렇다고 耕地整理를 一時에 하려면 그만큼 충분한 資金이 뒷받침 되어야 하기 때문에 일시에 시도하지는 않더라도 우선 耕作道路만이라도 어느 정도 닦아 놓는다면 機械投入이 용이하고 效率的으로 農土를 利用할 수 있지 않나 생각합니다.

그리고 현재 政府가 시도하는 10大 戰略作目 재배는 지금까지 별로 큰 성과를 거두지 못한 것으로 알고 있습니다. 한 예를 들면 79년도에 政府에서 권장하는 藥草를 30 백경에 시범포를 만들어 심었습니다. 처음에는 指導所에서 간판까지 붙여주며 권장도 했고 作況도 상당히 좋았습니다만 현재는 인건비도 나오지 않아 엎어버리고 다른 作目을 하고 있습니다. 이렇게 볼때 앞으로 政府는 10大 戰略作目을 권장함에 있어 실패가 없도록 시책방향을 모색해 주었으면 감사하겠습니다.

卞奇洙(새마을 營農技術者 忠北道 聯合會長)：農村問題에 대해 많은 관심을 가지고 이렇게 協議會까지 갖게 해주신데 대해 감사 말씀 드립니다. 특히 금년에는 農事資金을 조기에 放出해 주고 미상환 금액에 대해서는 연체를 면제해 주신데 대해서는 더욱 감사 드리면서 몇가지 農村問題에 대해 말씀 드리겠습니다.

지난 70년대 부터 新品種이 보급되어 5천년의 가난을 씻고 농촌이 윤택해졌습니다. 그러나 연 3년간의 凶作으로 부채가 늘어났습니다. 다행히도 작년도에는 그런대로 농사를 지어 여러 가지 빚을 갚으려고 했습니다. 그런데 價格이 미흡한데다 輸入까지 계속한다니 農民의 의욕은 떨어지는 실정입니다. 앞으로 수입을 規制해 주고 增産意慾을 農民

에게 鼓吹시켜 주었으면 하는 것이 農民의 바람 입니다.

다음으로 增産을 위해서는 무엇보다도 地力이 問題라고 당국에서도 말하고 있습니다만 農村事情이 과거보다 좋아지다 보니 生産費 문제, 人件費가 많이 들어가고 있습니다. 人件費의 절감을 위해서는 무엇보다도 農機械의 보급이 많이 되어야 하겠습니다. 현재 농기제는 價格도 비쌀 뿐 아니라 外國에 비하여 償還期間이 짧아 영농비 자체가 많이들기 때문에 農民의 입장에서 볼때에는 적어도 償還期間을 연장해 주어 生産費를 절감해 農民의 所得을 늘릴 수 있도록 해주셨으면 감사하겠습니다.

金洙明(江原道 聯合會長) : 오늘 농산국장님의 말을 듣고 마음이 기쁘고 흐뭇합니다. 그런데 江原道の 경우는 현재 벼농사보다는 밭농사 위주인데 감자와 같은 高冷地 작물의 소비가 부진하여 저장되어 있는것만도 수십만 t에 달하고 있습니다. 이것을 전국에 소비할 수 있도록 방향을 제시해 주셨으면 감사 하겠습니다. 그 다음으로 벼 品種에 있어 현재까지 일반계 품종이나 통일계 품종을 많이 栽培하고 있습니다. 이것이 우리 農業에 가장 적합한 品種이나 하는것은 알 수 없지만 食糧增産을 위해서는 이 품종을 더욱 개량할 필요가 있으며 또 米價를 現實化시켜 農業을 하는 사람이 안정되게 일을 하여 농민도 어느 企業人이나 都市勤勞者에 못지않은 생활을 할 수 있도록 誘導해 줌으로써 米穀生産뿐 아니라 農業의 發展도 기할 수 있으리라고 생각합니다.

그리고 또 한 가지는 대통령께서 多收穫 시상을 하는데 있어 상금을 10만원에서 20만원으로 올리라고 말씀하신줄 알고 있습니다. 그런데 江原道는 지대가 척박한 산간이므로 시상기준을 영남, 호남, 경기 지방과 같이 비옥한 지대와는 다르게 책정해 주셨으면 합니다. 예를 들면 시상의 기준이 되는 단위당 收量을 650kg으로 정했을 경우 江原道는 지역에 따라서 600kg으로 시상의 기준을 내린다든가 하여 다같이 시상의 균형을 갖게해 주셨으면 감사 하겠습니다.

金範起 : 한가지만 더 말씀드리면 작년에 農協에서 供給한 農藥과 市

中 農藥價格과의 차이가 있어 많은 문제가 제기 되었습니다. 금년에는 이러한 문제가 또다시 제기되어 農民의 불평요소가 되지 않도록 해주셨으면 좋겠습니다. 둘째는 畜産문제인데 작년에 當局은 畜産物을 外國에서 1만 t 정도 輸入한다고 발표하였는데 그후 2만 5~6천 t 가량 輸入하여 150~160 %의 차질이 있었는데 이에 대해 말씀해 주셨으면 감사하겠습니다.

朴正潤: 全北 聯合會長께서 機械化 事業과 관련하여 耕地整理가 先行이 되어야 機械化가 되고 機械를 가져갈 수 있는 農路가 있어야만 機械化가 촉진되지 않느냐고 말씀하셨는데 사실 그렇습니다. 저희들이 60년대와 70년대 까지 機械化 事業을 했읍니다만 그것은 주로 농약살포기, 경운기등 기본기계 었읍니다. 耕地整理가 선행되어야 할 機械는 트랙터, 콤바인 등인데 지금 현재 콤바인, 트랙터는 보급율이 適正대수의 4~6 %에 불과한 실정입니다. 그래서 政府에서도 耕地整理를 확대하려 애를 쓰고 있고 農民들도 耕地整理를 원하고 있습니다. 그러나 政府의 財政 형편이 뒤따르지 못하고 또 農民도 耕地整理에 보다 확대하기 위하여 많은 노력을 기울이겠습니다. 다만 耕地整理를 하지않고 農路를 먼저 내버리면 되지 않겠는가 하는 말도 있는데 사실 耕地整理를 할때의 農道와 지금있는 既設 農路를 돈을 들여 개선할 경우를 보면 耕地整理를 할때는 다시 길을 내야한다는 문제가 야기되므로 저희들도 검토하지 않는것은 아닙니다.

金範起: 그렇다면 耕地整理하기 전이라도 경지정리의 경우를 감안해서 전문가들이 연구하여 農道만이라도 미리 만드는 方向으로 나아갈 수는 없겠습니까?

朴正潤: 지금 既設 農道 중 좁은 것이 있어서 다시 耕地整理를 감안해 農道를 내어야 하는데 거기에는 여러 잡음이 나옵니다. 그래서 이 문제는 계속적으로 검토를 해 보겠습니다.

司會 : 그럴 경우 耕地整理를 할때 어떻게 도로를 내고 하는것은 地域 사람과 협의를 하고 있지 않습니까 ?

朴正潤 : 다 하고 있습니다.

司會 : 그렇다면 그런 문제는 별로

朴正潤 : 지금 말씀은 耕地整理를 하기 前이라도 돈이, 財政이 허락하는 범위에서 農道부터라도 먼저 내 주면 機械化가 용이하겠다는 말씀입니다.

金範基 : 그렇습니다. 지금 현재 새마을 사업으로 部落과 部落의 道路는 되었음니다만 耕作地域에는 道路가 없기 때문에 耕耘機가 있더라도 지게로 지어 나르고 있습니다. 실제로 가보면 機械化니 뭐니 해도 길이 없어 耕耘機도 못들어가는 실정입니다. 그래서 耕耘機가 닿을 수 있는 데까지 사람이 등으로 지어 나르고 있어 그것이 제일 고충입니다. 다른 것은 다 해나가도 人力이 적기 때문에 지게를 면하지 못한다면 문제입니다. 그래서 財政이 뒤따르지 못한다면 耕地整理는 못할지언정 耕地整理의 앞을 내다보고 미리 耕作道路를 쓸수 있도록, 耕地整理를 해도 道路에는 지장이 없게 하여 우리 農村에, 미리 앞을 내다 보고서, 耕作道路를 해주었으면 합니다.

朴正潤 : 아뭏든 검토하여 반영하도록 하겠습니다. 新品種의 확대문제가 나오는데 사실 新品種이라는 개념은 최근 달라졌습니다. 일반계品種과 통일계品種으로 보통 나누는데 일반계品種도 최근 育成하기 때문에 통일벼와 다른없는 生産力을 내는 좋은 품종도 많습니다. 일반계品種, 그러니까 자포니카型이지요. 그것도 새로 나온것은 新品種이므로 통일계만 新品種이라는 개념은 바뀌었습니다. 그래서 新品種이라는 것은 통일계전 일반계 이전, 새로 나온 품종으로 정의되고 있습니다. 지

난해 통일제는 27%가 들어가고 일반제는 73%여서 목표 3,800 만섬 달성에 가장 부진요인으로 생각되는것은 바로 일반제 품종이 많이 들어가고 多收性 品種이 들어가지 않았다는데 있습니다. 新品種 확대문제는 과거처럼 강권하지는 않겠습니다. 다만 多收穫 施賞制와 관련하여 이것을 심을 경우 제대로 관리만 한다면 역시 100kg이상의 수량의 차이가 있습니다. 저희들이 보기에는 적어도 50%가 적정입니다. 50%로 가져가는데 있어 기술상의 문제를 여러 가지로 검토하고 있습니다. 지난해에도 우리 農民들이 일반제만 심고 후회하는 사람을 상당히 많이 보았습니다. 그래서 앞으로 政府는 통일제 위주로 收買를 견지해 나갈생각입니다. 또 통일제 위주로 栽培해 나가는 農家에 대해서는 施賞制를 확대해 나갈 計劃案도 가지고 있습니다. 우리 農民들이 80년도에는 多收穫 일변도 였고 작년에는 安全 위주로 생각하여 일반제가 많이 들어갔고 하여 금년에는 안전 플러스 다수확, 그래서 安全多收穫 개념으로 나아갈 계획입니다. 그러므로 新品種 擴大問題는 農民이 스스로 깨닫고 栽培할 수 있도록 해나갈 것입니다. 과거의 통일벼와 현재의 통일벼는 근원적으로 다릅니다. 다시 말해 그 동안 나쁜 品種은 거의 도태되고 좋은 품종이 많이 나왔습니다.

81년도 米價問題(14% 인상)는 제 소관은 아니지만 여러분이 다 알고 계시다시피 米價만 엄청나게 올려준다고 해서 農民들이 잘 사는것은 아닙니다. 米價가 오르면 都市勤勞者의 봉급이 인상되어야 하고 또 物價도 오르게 됩니다. 物價가 오르면 또 다시 봉급이 인상되어야 하고 米價가 20% 오른다고 해서 物價가 20% 올라버린다면 農民들은 그만큼 손해인 것입니다. 그런 견지에서 政府는 米價問題를 검토하여 확정한 것이니 만큼 여러분의 이해가 있어주었으면 합니다.

쌀 수입 문제를 말씀드리면 80년도는 상상외의 冷害로 인하여 2,450 만섬 밖에 生産하지 못했습니다. 그래서 81년도에 비하면 1천만섬 이상 차이가 있습니다. 더욱이 우리는 다른곳과 달라서 北의 金日成과 대치하고 있는 실정이므로 우리나라의 安保의 차원에서 主食인 쌀이 備蓄되지 않으면 곤란합니다. 凶年이 들어어도 쌀을 미리 備蓄해 두었기 때

문에 무사히 넘어가고 있는 것입니다.

그다음 상환기간 연장문제도 政府 전체의 財政의 한계가 있기 때문에 여러분의 이해가 있어야 하겠습니다.

강원도의 김선생님 질문에 답하자면 江原道는 벼농사가 주가 아니기 때문에 사실 一個郡보다도 畵面積이 작아 감자바위라 불릴 정도로 감자를 많이 생산하는 밭 농사 지역입니다. 최근에는 옥수수가 좋은 所得源이 되고 있습니다. 그래서 앞으로 政府가 독일, 미국 등 서구에서는 거의 主食이 되고 있는 감자생산에 힘을 기울이면 현재 1단보당 1천kg 정도 밖에 생산되지 않는 감자도 無病種薯만 확대공급하면 2배인 2천kg은 생산할 수 있습니다. 그렇기 때문에 무병종서 확대생산 供給과 결부하여 감자는 앞으로 消費面에서나 영양 균형면에서나 食糧 또는 主食을 바꾼다는 면에서 주요한 食糧作物임에는 틀림없습니다. 그리고 감자 증산은 앞으로의 食糧增産 7個年 計劃에도 반영되어 있을뿐만 아니라 의도적인 收買價格 支持문제까지도 아울러 검토하고 있다는 것이 기회를 통하여 말씀 드리겠습니다. 그리고 옥수수에 대해서도 지난해까지는 全量 收買하였었습니다. 그래서 導入 옥수수와 연관시켜 全量 收買토록 하고 있기 때문에 擴大 栽培에 있어 너무 심려하지 않아도 될 것입니다.

그다음 벼 생산 施賞問題에 대해 말씀하셨는데 강원도는 단위 면적당 생산량이 南部 平野地帶보다 훨씬 적습니다. 그래서 가령 600kg이상 生産農家만이 10만원에서 20만원 정도의 시상금을 받는다면 江原道는 별로 혜택을 못보지 않느냐, 地域的으로 보면 강원도는 산간지방이 많고, 多收性 品種이 맞지 않기 때문에 문제가 되지 않느냐는 문제가 있었지만 과거 73~76년까지는 多收穫 品種 시상시에 이 문제가 고려되지 않았었습니다. 그러나 금년도에는 마을별로 마을에서 가장 많은 收穫을 한 사람 위주로 시상하려 합니다. 그러므로 강원도도 같은 여건 밑에서 누가 가장 많이 生産하느냐에 따라 상금을 받기 때문에 이 문제도 해소되지 않을까 합니다.

그리고 農協 農藥값과 市中 農藥값 중 農協 農藥값이 비싸고 市中 農藥

값이 싼데, 정부가 供給하는 價格이 비싸서 되겠느냐하는 말씀이었읍니다. 사실 農協이 供給하는 農藥값은 정상적이고 市中에서 시판되는 가격은 덤핑을 해서 파는 價格입니다. 그러니까 자기 원가를 못받고 파는 것이죠. 작년에도 이것 때문에 상당히 문제가 되었는데 市中에서 파는것은 어느 一定期間에 資金의 회전을 위하여 자기의 생산 원가가 100 원이라면 60~70 원에 파는 경우와 마찬가지로입니다. 만약 市中 農藥값이 農協의 價格보다 비싸다고 할 경우 農民이 손해를 보게 되어 단속을 했을텐데 시중에서 파는 농약값이 싸기 때문에 농민이 그만큼 혜택을 보지 않느냐 해서 단속을 엄격히 하지 않았던 것입니다. 그러나 이런 일이 있으면 農協은 農民들로 부터 비난을 받게 됩니다. 다시 말씀 드리면 農協은 非營利 團體인데 農協이 오히려 市販값보다 비싸게 마진을 붙여 판다면 있을수 없는 일이 아니냐고 農民들은 비난을 합니다. 그래서 금년도에는 이러한 일이 절대 없도록 단속을 해 나갈 예정입니다.

그리고 마늘 도입 문제 라든가 군납문제 등은 채소과장이 답변하도록 하겠습니다.

金允善 : 전북의 김회장님의 말씀은 지도소 지도하에 戰略作目を 栽培했는데 사가지 않아 販賣가 곤란하다고 할때 10大 戰略作目도 價格과 販賣 보장이 되어야 하지 않겠는가 라는 것으로 압니다. 저희가 10大 戰略作目を 선정 할때는 우선 需要가 있어야 되지 않겠는가 해서 우선 輸入으로 충당하고 있는 作目, 즉 참깨, 땅콩, 麥酒麥 또 自給 가능성도 있고 계속 需要가 증대되는 作目인 유채, 감자, 마늘, 양파, 신선 채소 같은것과 유희지를 활용해서 재배할 수 있는 과수등 10개品目を 10大 戰略作目으로 선정했습니다. 특히 수입으로 충당한다든지 需要가 증대되는 것은 수요에 부응하여 適正生産을 하도록 하기 위하여 地圖를 만들어 계획생산 한다고 말씀드렸습니다. 과수와 같은 경우 品種 代替로 제값을 받도록 해야 되겠다는 취지에서 말입니다. 그래서 우선 價格보장이 문제가 되어 참깨는 81년도에 가격을 예시했습니다. 금년에는 참깨에 이어 땅콩, 유채도 價格을 예시하고 내년도에는 맥주보리를 추가하

여 점진적으로 확대해 나갈 작정입니다. 또 가격예시만으로 되는 것이 아니므로 工業用 原料인 경우 全量을 제약재배하고, 특히 마늘같은 시장의 가격조절 기능 만큼, 양과 같은것은 제약재배를 해야겠다 하여 제약재배를 확대해 나갈 계획으로 있습니다. 홍수 出荷期의 價格下落 방지를 위해서는 수매 備蓄을 확대해야 하기 때문에 올해는 收買備蓄을 대폭적으로 늘렸습니다. 물론 작년도 함께 가격을 예시했을 경우 20만 6천원 보다 시가가 높으면 收買는 되지 않으나 가격예시를 함으로써 적정가격이 유지가 되는것으로 효과는 있다고 봅니다. 收買備蓄도 계속 확대해 나갈 계획으로 있습니다. 특히 加工 施設을 해서 消費를 확대하려고 합니다. 그리고 收買貯藏을 할 경우 좋은 貯藏施設이 있어야 하는데 현재 우리나라에 있는 貯藏施設은 약 4만 4천坪 밖에 되지 않습니다. 그래서 5차 5개년 계획 동안 매년 6천坪씩 늘려 3만평을 더 지을 것입니다. 이렇게 되면 收買가 자연히 확대되지 않을까 생각합니다

司會：마늘이 요즈음 항간에서 말썽을 일으키는 것으로 알고 있습니다 鹽藏마늘은 자동 수입품목으로 되어 있죠? 그러나 항간에는 台灣에서 소금만 살살 뿌려 鹽藏을 위장한 마늘을 들여와 마늘값이 조금 오르면 그 마늘이 많이 출하되어 마늘값이 폭락한다는 말이 나돌고 있습니다. 이점에 대해서 좀 ……

金允善：최근 마늘 價格이 상당히 높게 형성되어 있기 때문에 鹽藏마늘을 들여오고 있는데 그 내용을 조사해 본 결과를 말씀 드리겠습니다.

鹽藏마늘은 商品 分類상 넘버가 0703 이라는 것인데 거기에 보면 鹽藏 菜蔬라고 되어있고 國際商品解說에는 一時貯藏이나 輸送을 위해 소금에 처리하든가 아황산수에 일시 저장하는것을 말한다고 되어 있습니다. 그래서 우리가 이야기하는 鹽藏마늘이라 함은 소금에 담궈서 마늘장아찌처럼 먹는 것으로 인식하기 쉬운데 그렇게 되면 食品이 되는 거죠. 그러나 상품분류에 보면 수송과 일시적인 부패방지를 위해 소금을 넣는다고 되어있기 때문에 그 법을 악용해서 업자들이 마늘을 가지고 들어옵니다. 중간에

소금이나 바닷물을 넣어 鹽藏하여 세관을 통관하는 즉시 脫鹽을 해서 접질을 까고 비닐속에 넣어 貫이나 kg으로 팔아 버립니다. 특히 除皮作業을 서산과 같은 마늘 주산단지에서 하기 때문에 主產團地 農民의 원성이 높습니다. 이제까지는 CCCN에 의한 分類가 있었어도 그런일이 없었기 때문에 政府도 미처 그것을 생각하지 못했습니다. 원래가 자유화 품목이었고 또 과거에도 輸入된적이 없었을뿐만 아니라 세계 어느 나라에서도 그런일이 없었기 때문에 아무도 몰랐던 것입니다. 이것이 문제가 되고난 연후에야 이런 조항을 惡用했구나 하는 것을 알게 되었습니다. 그래서 통관시에 검사를 강화하여 소금을 형식적으로 뿌린것은 전부 수사를 하도록 했습니다. 잠깐 소금물에 담겨서 들어온것에 대해서는 現行法上 하등의 制裁規定이 없기 때문에 감시품목이나 제한품목으로 되어야 합니다. 그러나 우리의 輸入政策은 자유화를 원칙으로 하고 있고 개방을 지향하고 있기 때문에 商工部側에서는 既存 制限品目 중에서 대체를 하든가 그렇지 않으면 곤란하다고 합니다. 그래서 저희는 1년에 한번씩 6월달에 바뀌는 기별공고때 이 품목을 制限品目이나 監視品目으로 추가하여 制度的으로 도입하지 못하게 하겠습니다. 이 문제에 대해서는 수사를 해 보기도 했고 세무사찰과 통관 지연이라는 수단을 써 보려고도 했습니다. 그러나 실제로 통관을 지연하기 위해서 1주일씩 세관에 묶어 놓으면 서류는 다 구비되었는데 왜 통관을 지연시키느냐는 등 민원이 야기되어 그것도 곤란했습니다. 그래서 소금이 덜 들어간 것은 전부 심리에 넘겼습니다. 그렇다고 하여도 그들을 데려다가 왜 이러했느냐, 저러했느냐고 따지는것이 고작이어서 금년 6월 기별공고 개정 시에는 꼭 반영하도록 하겠습니다.

李起福(酪農課長): 畜產物 輸入에 관해 간단히 말씀 드리겠습니다. 지난해 쇠고기를 1만톤 수입하기로 하고 2만톤을 輸入한데 대한 질문이 있었는데 여기에 대해 말씀 드리겠습니다. 우리 나라에서 연간 消費되는 量은 약 70만두 정도가 되나 현재 飼育頭數는 30만두 밖에 되지 않아 현재 飼育頭數로는 需要를 충당하지 못하는 실정이어서 수입이 불

가파하게 되어 있습니다. 지난해의 경우 1만톤 정도만으로 모든 供給이 圓滑히 이루어 지리라고 당초에 내다보았고 또한 쇠고기 가격을 자율화시킨 연후에 價格이 오르면 싼 닭고기나 돼지고기 등으로 消費가 바뀌어 질것으로 예측하였었습니다. 그러나 돼지고기 가격이 엄청나게 올라 쇠고기 需要가 다른 고기로 전환되지 않았었습니다. 그리고 소 값 자체도 適正價格 이상으로 價格이 상승한데다가 大都市의 쇠고기 供給이 원활하지 못하다보니 쇠고기의 추가도입이 불가피 했었습니다. 그러나 쇠고기를 輸入한다고 해서 그것을 一時에 放出하는 것이 아니고 時勢形成에 따라 조절 방출하고 있기 때문에 產地價格에는 큰 영향이 없을 것입니다.

裴大漢 (韓國酪農資源開發研究所 副所長) : 「마지기당 벼 한 가마 더 생산」이라는 표어는 잘된 표어라고 생각합니다. 그러나 한 마지기가 몇 평인지는 통일되어 있지 않은것 같습니다. 대학에서는 마지기를 150평으로 이야기 하는가 하면 農民들은 200 평을 말하기도 합니다. 농수산부 박국장님의 앞의 보고에서는 200 평이라고 설명했는데 마지기를 통일해서 써야겠습니다.

그 다음은 新品種과 관련되는 문제인데 지난 80 년에는 상당한 減收가 있었습니다. 여기에는 물론 여러 가지 요인이 있었겠지만 그 요인을 品種과 관련하여 생각했을때 60~70%를 차지했던 統一系 신품종이 결정적인 減收의 요인이 아닌가 생각합니다. 그러나 81년도는 어떤가? 統一系는 27% 밖에 들어가지 않아 完全히 반대가 되어 버렸죠. 農水産部에서는 81년도의 작황이 平年作 정도에 따라갈수 있는 풍작이라고 하기도 하고 목표보다 약간 減收가 되었다고도 합니다. 아뭏든 減收가 되었던 어쩔든 간에 그것을 좌우한 결정적인 要因은 역시 統一벼의 栽培面積이 줄었다는 점에서 우리는 반성해야 하지 않겠는가 생각합니다. 統一系건 一般系건 耐病, 耐災害, 多收性 新品種의 보급이 절대 필요할것입니다. 이것이 없으면 앞으로 增産은 기대할 수 없을 것입니다. 이런 의미에서 農水産部가 올해 新品種을 50%선까지 올렸다는것

은 의욕적이라기 보다는 오히려 너무나 타협적이 아니냐는 것입니다. 新品種을(統一系를 지칭하는 것은 아님) 50에서 60, 70%로 더 확대해 나가고 또한 農民들도 그것을 받아들여 新品種에 대한 栽培技術을 빨리 익혀 정착해 나가지 않는다면 앞으로 증산이란것은 차질을 빚지 않을까, 3,800만섬에서 또다시 후퇴하지는 않을까 하는 생각이 듭니다. 그외에 우리가 지금까지 해오던 增産, 增收의 요인인 早植, 密植, 多肥, 病蟲防止, 필당 10 포기 더심기(密植)에 있어서도 잘못된 점은 시정하여야 하겠읍니다. 病蟲害 문제도 農水産部가 생각하고 있는 기간防除는 대단히 좋은 아이디어라고 생각합니다. 그러나 이것은 各道나 各地域의 현지에서는 기술적으로 정착이 되어있지 않다고 봅니다. 그렇다고 振興廳을 비방하는 것은 아니지만 品種이 바뀌고, 技術이 바뀌고, 여러가지 環境이 바뀌어 졌을때, 최근 農水産部가 힘들여 만들어 놓은 病蟲害 상승지역의 분류등을 기초로 하여 적어도 전국의 各道, 各地域, 各團地別로 기간防除를 중심으로 共同 또는 集團別로 防除의 모델을 만들어 그 모델을 더 확대해 나가는것이 어떨가 합니다. 이 모델을 만든다는것에 대해서는 아직 研究도 指導도 모자라고 農民의 수준에서도 모델의 정착에 대해서 技術이 정착화 되지않고 있는것 같습니다. 그래서 올해는 어떻게 해서든지 病害蟲 방제를 增收 즉 所得이 1단보당 얼마가 되느냐는 면에서 生産을 생각해 가면서 과연 앞으로 80년대에는 어떠한 要因이 增收에 작용하는가를 農水産部나 農村經濟研究院에서 전국적인 베이스로 品種, 早植, 移植, 多肥, 地力, 病蟲害, 災害와 기타요인을 분석 하여야 할 것입니다. 한 요인이 얼마만큼 작용하였으며 또한 그것이 所得증대나 증산이라는 관점에서 분석 평가하여 앞으로 증산시책의 목표, 연구지도의 방향으로 설정해 나가 주셨으면 하는 생각이 간절합니다.

司會 : 農機具組合에서도 나오셨는데 農機械價格에 대해서 한 말씀해 주십시오.

孫洛律 (韓國農機具工業協同組合 營業部長) : 아까 忠北의 변선생님이

農業機械 價格이 적당하지 않다는 말씀을 함축성있게 해주셨습니다. 農業機械는 종류가 다양하고 사용하는 사람에 따라 農機具組合에서는 현재 農水産部가 추진하고 있는 農業機械化事業 정책분만 취급하고 기타 機種에 대해서는 취급하지 않고 있습니다. 그런데 현재 農業機械 價格이 비싸지 않느냐하는 측면에서 말씀드리겠습니다. 제가 여기에 가지고 나온 자료는 日本의 價格과 비교한 것인데 이것을 보면 國産 動力耕耘機 디젤 8마력의 경우 1980년도 台當 가격은 1,142.8千원이었고 81년에는 1,307千원 이었습니다. 日本의 動力耕耘機 8마력의 경우 똑같은 8마력인데 여기에는 부속작업기가 부착되지 않고 本體와 로타리를 첨부한 가격만 63만엔, 우리 돈으로 환산하면 1,876.84천원입니다. 이렇게 비교해 보면 우리 價格이 日本 價格의 약 70%라는 계산이 나옵니다. 動力耕耘機와 마찬가지로 噴霧器도 日本 價格의 55% 수준에 머무르고 있고 살분기도 77% 수준에 머물러 있습니다. 이것은 對農民 價格으로 비교했을 경우에限해서 비교되는 수치입니다.

그다음 農民에게 보급되는 農業機械 價格이 결정되는 절차를 말씀드리겠습니다. 우선 政府(農水産部)가 農機械의 價格을 최종적으로 결정합니다. 農水産部가 農協中央會에 가격 결정 지침을 내리면 農協中央會에서는 原價計算機關 즉 生産性本部라든지 각 大學 研究機關에게 다시 원가조서를 위촉합니다. 금년에는 韓國農村經濟研究院에서 그일을 했습니다. 그 자료를 원가조사 기관에서 최종적으로 사정한 자료를 農協中央會가 검토하여 불필요한 요인을 제거시킨 다음 이것을 다시 農水産部에서는 政策的인 면을 감안하여 다시 깎아 내립니다. 예를 들어 農機械 原價가 14% 올랐다고 하면, 금년도 쌀 收買價格이 14% 수준에 머무르고 있으니 農機械 價格도 그 이상 될수는 없다고 하여 10% 이하로 칼질을 하는 것입니다. 작년에는 국제종합기계가 약 30億원, 동양물산이 26億원, 아세아종합기계가 10億여원의 결손을 보았습니다. 다만 역사가 오래되고 供給台數가 가장 많은 대동공업만이 약 8億원의 黑字를 보았다고 합니다. 이 상태를 장기적으로 물고 간다면 生産業體는 倒産을 하게 됩니다. 따라서 이와같은 정책도 限界가 있어 어느정도

가 지나면 농기구를 공급할 생산업체가 없어지게 되니까 이것도 문제가 됩니다. 그래서 생산업체들은 건축재정으로 부품을 생산하는 系列業體의 部品 가격등 모든 매입물자를 인하하고 있는 실정들 입니다. 또 생산업체는 인건비를 인상하지 못하고 있습니다. 이러한 고통을 생각할 때 農民들이 비싸다는 기준을 어디에 두고 있는지 잘 모르겠습니다. 그리고 업체들을 이렇게 도산지경으로 몰아넣고도 農機械의 供給을 추진할 것인지 답변을 듣고 싶습니다.

司會 : 그럼 다면 한가지 말씀을 드리겠습니다. 지난 연말에 忠北 농촌진흥원에서 指導所長님등 각 市·郡 농업 관계자 간담회가 있었습니다. 그 당시 모부처 소장님의 말씀이 10여년전에는 T.V 한 대 값과 耕耘機 한 대 값이 거의 동일했지만 현재는 T.V 값이 당시에 비해 많이 오르지 않았지만 耕耘機 가격은 10년간 10배가 올랐다는 것입니다. 그렇게 볼때 部品를 우리나라에서 생산하는지 아니면 輸入하든지 자세히 모르지만 農機械를 輸入할때 原資財값도 免稅해주어 農民을 지원해 주어야 하지 않느냐는 방안이 나왔고 지금 日本과 우리나라를 비교하여 말씀하신 가운데서 우리가 30% 더 싸다고 해도 제가 알기에는 日本은 그 償還期間이 더 길게 되어있는 것으로 압니다.

孫洛律 (韓國農機具協同組合 營業部長) : 償還期間에 대해서는 저희 農機具組合에서 결정하는 것이 아니라 政府가 결정하는데 政府는 耕耘機의 경우 금년부터 2년 거치 5년 균등상환으로 기간을 늘려 시행할 계획입니다.

卞奇洙 : 農機械 문제에 있어서 農民들이 제일 불편을 느끼는 것은 部品에 대한 規格化 문제인것 같습니다. 政府는 열 가지든 백 가지든 部品를 規格化하여 品質이 좋은것을 공급해야 할것입니다. 質이 나쁜것을 끼워넣어 기계를 망친 경우가 상당히 많은것 같습니다.

孫洛律 : 좋은 말씀해 주셨는데 저희도 그것 때문에 상당히 고충을 겪고 있습니다. 물론 業體마다 部品の 수량과 종류가 약간 다르지만 動力耕耘機의 경우 약 1,200 종이 됩니다. 저희가 부품규격 문제와 유사품 유통문제로 두가지 측면에서 상당히 고충을 겪고 있는데 하나는 部品規格을 統一化 시키되 개발을 저해하지 않아야 되고, 또 하나는 그것이 각 업체마다 생산하는 部分의 특성을 어느 정도까지 한정 짓느냐 하는것이 문제점이 되고 있습니다. 그 다음으로 이미 供給된 機種에 대해 部品規格을 통일하면 또 다시 문제가 발생하게 됩니다. 그래서 이와 같은 측면을 감안하여 가능한 범위 내에서 商工부와 工業振興廳이 이 문제를 해결하려 하고 있습니다. 하나의 部品の 규격을 통일할 경우 과거에 供給된 機種의 애프터 서비스와 유통문제가 또다시 대두 됩니다. 그래서 이와 같은 문제도 계속 검토, 추진해 나가고 있습니다. 또 畝, 面 단위에 가보면 저희가 지정하지 않은 비공식 수리소가 많습니다. 이런 데서는 자기 집이나 조그만 공장을 세워놓고 형태만 비슷한 類似品을 만들어 供給하는 경우가 상당히 많습니다. 이것은 어떻게 보면 必要惡이랄수도 있습니다. 편리한 경우도 있지만 그런 곳에서 제공하는 부품의 品質이 나쁘기 때문에 수명이 오래가지 못하며 또한 價格이 어느정도 다르기 때문에 流通秩序를 혼란시키고 價格構造를 흐리게 하고 있습니다. 어떤 企業에서는 아무리 좋은 것을 生産하려 해도 品質面에서나 또는 價格構造面에서 애로를 겪고 있다고 합니다. 그래서 저희가 農水産部에 건의하여 작년도에는 대리점, 수리점을 制可制로 해보려고 법제처에 서류를 냈지만 民營化를 추진하는 마당에 그런것까지 허가제로 할 수는 없다고 하여 그것은 기각 되었습니다. 앞으로 이 문제를 어떻게 해소해 나갈지에 대해 여러분의 高見이 있으면 말씀해 주십시오. 저희들도 많은 연구를 하고 있습니다.

司會 : 한가지 질문이 있습니다. 1,200 부품중 서로 共用으로 쓸수 있는 것은 몇가지나 됩니까?

孫洛律 : 계속 추진중에 있습니다만 현재로는 20여종이 되고 있습니다.

司會 : 그러면 農民들이 사용할때 磨耗가 가장 심하고 부품 교체를 빈번히 해야 하는 부품은 무엇입니까? 우선 그런 부품만이라도 전부 표준화 하자는 것입니다. 석유 디젤도 5마력, 8마력, 10마력 짜리가 있어 현재는 같은 석유 8마력짜리도 이회사, 저회사에서 제작하고 있는데 이것을 회사별로 8마력이면 8마력, 10마력이면 10마력으로 전문화하여 生産하면 生産 코스트도 낮추고 이용자 입장에서든 바쁜 시기에 고장이 나는 곤란도 줄어들지 않을까 합니다. 가령 하루만 移秧이 늦어져도 收量에 영향이 미치고 눈에 보이지 않는 여러 가지 손해가 많습니다. 部品들이 조금 더 비싼것이 문제가 아니라 部品の 質이 낮다든가 제때에 供給이 되지않은데서 오는 손해가 더 큼니다. 이런 문제는 業者와 實需要 機關과 行政當局이 연구하여 빠른 시일내에 대책을 강구하는 것이 좋을것 같습니다. 農民들의 불평이 가장 큰것이 바로 이 문제입니다.

朴正潤 : 그 문제에 대해서 담당국장으로 한 말씀 드리겠습니다. 農機械 문제는 農村 勞動力 부족과 결부되어 있는데 지금까지는 防除機具나 양수기등 災害를 방지하기 위한 機械를 중점적으로 보급했고, 農牛를 대신하는 耕耘機는 약 30만대가 보급되어 있습니다. 벼 收穫期와 보리 播種期가 겹치고 모내기과 보리베기가 겹쳐 勞動力이 가장 많을때가 문제여서 收穫機와 移秧機는 바인더이든 콤바인이든 간에 융자금리를 6%로 내리자고 하여 절반으로 인하 하였습니다.

그와 동시에 部品 문제가 민원으로 가장 많이 접수되고 있습니다. 그래서 農水産部에 작년부터 農機械審議委員會라는 것을 설치했습니다. 자동차의 경우에는 포니의 부속을 코티나의 부속에 쓸수 없습니다. 그러나 우리 農村의 여건으로 보아서는 대동의 경운기나 국제의 경운기, 아세아의 경운기에 같은 부품을 쓸수 있도록 해나가고 있습니다. 예를 들어

기름탱크가 망가졌을 경우 대동의 耕耘機에 아세아의 것이나, 국제의 것을 쓸수 있도록 하자는 것입니다. 사실은 처음부터 그렇게 했어야 불편이 없었을 터인데 최근에는 볼트, 너트까지 회사가 틀리면 쓸수가 없어 이러한 면에서 審議會가 상당한 역할을 하고 있다는것을 이 기회를 빌어 보고 드립니다.

司會 : 이 자리에는 農藥會社側에서도 나오셨는데 農藥工業協會 朴선생님이 말씀해 주시죠.

李碩柱 (農藥工業協會 常務理事) : 아까 忠北의 변선생님께서 말씀하신 81년 農協農藥價格과 市販 農藥價格의 차이에 대해서는 박국장님께서 자세한 말씀이 있었습니다. 農藥業界로서 그 문제에 대해 해명을 하고 저희 문제점을 간단하게 말씀드리면 저희 農藥業界는 80년도에 각각 1만톤을 생산하여 供給하였읍니다. 잘 아시다시피 80년도에는 이상 冷害가 발생하고 81년에는 5, 6월 벼生育期에 한달때문에 농약을 제대로 못뿌렸고 그 다음에는 品種이 우수해서 病蟲害 발생이 상당히 적었읍니다. 그래서 80년도에는 약 35%에 해당하는 1만5천톤이 재고로 이월되고 81년도에는 4만톤의 40~45%에 해당되는 1만6천 내지 1만8천톤이 재고로 이월 됐읍니다. 그러나 농약을 供給할 때 제조회사는 市販 農藥 供給價格을 農協 納品價格보다 절대로 싸게 내지는 않고 비슷하거나 혹은 그 이상의 價格으로 출하하고 있습니다. 그러나 農藥在庫量이 하도 많다보니 일선 市販商들은 농약값은 지불해야 하겠고, 자금회전은 안되고 하여 需要期를 넘기고 나서 덤핑을 했읍니다. 그래서 전례없이 81년도에는 市販 農藥 價格이 싼것만은 사실입니다. 82년도에는 대량 納品處인 農協 農藥 價格은 市販價格보다 3% 싸게 納品하기로 대체로 결정하고 있습니다. 우리 나라의 農藥 所要量은 3만6천톤 정도인데 과거의 예를 보면 備蓄量을 제외하고도 15%가량 과잉 생산이 되기 때문에 82년도에는 가능한 물량을 조절해 앞으로는 需給 計劃 범위내에서 物量을 供給하도록 노력하겠습니다. 여러분께서는 市販 農藥

價格이 원가 이하로 판매된 것을 이해해 주시고 農藥 價格의 원가가 싸기 때문에 원가 이하로 낸 것이 아니라 원가는 많이 먹었지만 일부 農藥會社 市販商들이 기업 유지와 자금회전을 위해 부득이 덤핑한 점을 아울러 이해해 주시기 바랍니다.

그리고 農機具나 農藥은 수요자가 모두 農村의 영세한 農民들입니다. 그러기 때문에 가격 산정에 있어서는 관청이나 농협에서 관여하고 있어 農協側에서 말씀하신 경우와 다름없습니다. 財務部의 규정을 보면 農藥은 화학 제품으로서 제작비라는 것이 있어 22%까지 받을 수 있습니다. 그렇다고 利潤이 22%라는 것은 아닙니다. 그렇게 되어서는 않되죠. 그러면 원가 계산 방식을 잠깐 말씀 드리겠습니다. 그동안 石油波動이라든가 化學製品의 原料波動으로 인하여 국제적 原料價格이 상당히 상승되어 80년에는 30%, 81년에는 25% 그리고 올해에도 22%의 原價上昇要因이 발생했습니다. 그래서 저희가 農水産部 또는 農協에 대하여 적어도 18~24%의 가격 인상이 있어야만 적기에 農藥을 供給할 수 있다고 건의 하였습니다. 그러나 쌀값은 14% 밖에 인상하지 않았는데 어떻게 農藥 價格을 그렇게 인상 해줄 수 있겠느냐고 하여 작년 對比 8.5% 이내에서 인상이 허가되었습니다. 이렇게 하여 農水産部 가격 방침은 8.5% 이내이고 따라서 제작비는 14.2% 밖에 받지 못했습니다. 그 이유는 政府의 農産政策이 중요하고, 食糧이 우리의 안보적 차원에서 대단히 중요하기 때문에, 農民의 부담을 경감시켜야 하겠다는 방침 때문에 政府의 결정을 따랐습니다. 여러분들이 新聞紙上을 통해 결산서라는 것을 보면 아시겠지만 類似業種인 제약회사의 경우 매년 17% 정도, 최하가 7% 정도의 이익을 내고 있는데 이는 이익 배당과 세금을 제한 순수 이익입니다. 대개가 7~20% 정도이고 某會社는 40%까지 이익을 냈다고 하더군요. 만약 저희가 7% 이상 이익을 냈다면 農藥會社가 農民의 고혈을 빨아 이익을 냈다고 할 것입니다. 그래서 농약회사에서 이익을 보는 것을 마치 큰일이라도 나는 것처럼 알고 있습니다. 이러한 현실이기 때문에 여러분들이 農村에서 생각하시는 것처럼 농약가격이 풍족한 것이 아닙니다. 따라서 대개의 기업 이윤은 81, 82 년도의 경우 평균

1.5~2.5 %에 그치고 있습니다. 그러나 사실상 1.5~2.5 %의 이윤이 나왔느냐 하면 그렇지 않습니다. 전체 매상이 농협농약(600億)을 포함해서 1,400 億원인데 그중 市販農藥의 판매분 중 180 億원이 아직까지 미수금으로 있는 상태입니다. 農藥이라는 것은 자금회전이 1년에 한번밖에 되지 않습니다. 다른 업종은 1년에도 여러번 자금회전이 있지만 자금을 投資해서 製品을 빼내면 그해에 한번 밖에 자금이 들어 오지 않았습니다. 그렇기 때문에 農藥會社는 季節性때문에 5개월을 벌여 12달 먹고사는 실정이지요.

이 자리를 빌어 참고로 말씀드리면 상반기 결산서라 해가지고 한국회사가 12 %, 동방농약이 6 % 이익을 났다는 결산서가 신문에 난적이 있습니다. 이것은 상반기에 장사를 해가지고 6개월을 공제하지 않은 상태에서 법인세도 제하지 않은 상태에서 나온것입니다. 그래서 저희 業界로서는 불행스런 일입니다만 작년말 한 회사가 도산되고 여러 회사가 고전을 겪고 있습니다. 저희는 외 상으로 다 팔고 資金은 은행에서 대출하여 쓰기 때문에 결산서 상에는 적자를 내지 않습니다. 결산서에 적자가 나면 그 회사는 대부가 중단되기 때문에 결산서에는 어떻게 해서든 적자를 내지 않습니다. 그렇기 때문에 저희 업계의 특징은 어느 회사고 資産再評價를 해서 플러스, 마이너스가 되든 더 낮게 결산하든 紙上決算과 會社 自體決算과는 차이가 있습니다. 왜 이러한 말씀을 드리는가 하면 農藥이 민원의 가장 많은 비중을 차지하고 있고, 우리나라 국민 여론이 農藥을 상당히 기피하고 있으며, 農藥會社들이 상당한 폭리를 취하고 있는것처럼 알고 있기 때문에 이 자리에서 業界의 실정을 간단히 말씀드렸습니다.

卞奇洙 : 지금 세계의 原資材 價格은 인하 추세에 있다고 하는데 인상요인이 20 %가 생겼다고 하면 원자재 가격이 20 % 상승되었다는 것입니까? 아니면 다른 요인이 있습니까? 어떻게 해서 20 %가 되는 것인가요.

李碩柱 : 原資材라 함은 일반적인것을 이야기하는 것이고 農藥은 정밀 화학제품이기 때문에 그 一部에 지나지 않으며 農藥 原資材는 인하되기는 커녕 어떤것은 10%이상 인상된것이 있고 또 어떤것은 작년과 비슷한것도있고 하여 대체로 5~10% 인상되었습니다. 또한 작년 9월말 이후 달러가 719원으로 인상되었고 경제기획원에서 1월인가 6%정도 환율을 인상한다고 하여 많이 올랐습니다. 청제적인 것은 제가 잘 모르므로 틀리더라도 이해해 주시기 바랍니다. 우리는 원료를 이미 외상으로 들여왔기 때문에 예를 들어 달러가 700원 할때 들여 온것이 그사이에 720원으로 인상되었다고 하면 2.5% 인상되지 않았습니까? 이렇게 하여 달러의 인상요인 원자재 인상, 물가 상승등을 감안했을때 20%의 인상요인이 발생한다는것입니다. 그리고 農藥은 原價에 차지하는 원료의 비중이 80%나 되어 100원 짜리라고 하면 나머지 20원만으로 관리비, 생산비, 그리고 이윤을 남겨야 하기 때문에 農藥의 이윤은 매우 박합니다.

金範基(全北道聯合會長) : 그런데 저희들 農民의 입장에서선 잘은 모르지만 農協 供給價格과 市販 價格에 별 차이가 없으면 일반 시중에서 세금을 물어가면서 경영하는 분들이 農藥의 재고가 남아서 덤핑으로 판매할 경우 그들은 당연히 도산되어야 하지 않습니까?

李碩柱 : 우리 업계가 市販商으로부터 받아야할 금액이 180억이라고 했습니다. 우리나라의 農產物 流通構造상태가 농약뿐만 아니라 다른것도 아직도 체제가 확립되어 있지 않습니다. 더군다나 農藥은 農協이나 市販商을 통하지 않으면 판매가 곤란한 특수성이 있습니다. 예를 들어 작년에 A라는 市販商에 5억원 상당의 물건을 주었는데 이사람이 50%는 팔고 50%는 재고로 갖고 있다고 합니다. 그들은 이익을 제외한 원금을 會社에 갚아야하는데 부도를 내어버리고 맙니다. 在庫品을 찾아와도 이미 판것에 대해서는 어쩔수가 없습니다. 그러면서도 농약회사측은 울며 겨자먹기로 매년 농약을 대어 주는 거죠. 그리고 가을에 가서는 農藥이 안팔려 줄수 없으니 어음을 연장 해달라고 합니다. 회사측에서는 일단 안된다고 버티지만

않으면 부도를 내겠다 하여 연장해 주고 연장해줄 수 밖에 없는 실정입니다. 그래서 농약회사는 결국 시판상에게 질질 끌려다니고 있는 실정입니다.

金範基 : 지금까지는 農藥會社나 農機具會社측에서 회사 실정만을 말씀드리고 싶습니다. 앞으로는 어떻게 될는지 몰라도 지금까지는 가령 쌀값이 15% 오른다고 하면 다른 物價는 20, 30%씩 올랐습니다. 農民 입장에서는 물가가 얼마나 오르든 금년 1년의 쌀값이 7~8% 인상되었다고 하면 工產品이나 生必需品 價格, 農機具값, 農藥값 등 모두가 쌀값에 비례해서 인상된다면 農民들은 가격인상에 대해 아무런 불평도 하지 않을 것입니다. 모든것이 똑같이 오른다면 農機具 生産者나 農藥 供給者가 모두 타산이 맞지 않는다는 이야기는 하지 않을것입니다. 우리 쌀 生産者 입장에서든 타산이 맞지 않는다는 이야기를 양게 되겠지요.

司會 : 農産物의 가격이 얼마나 하는 것이 문제가 아니라 결국은 生産費와 관련시켜 農民들의 소득이 얼마나 되느냐가 문제입니다. 日本農民과 비슷하다고 하지만 農機具값도 쌀값에 대비한다면 우리 나라보다 훨씬 싸게 먹힐겁니다.

그리고 農藥문제에 있어서 또 한 가지는 日本이나 台灣의 경우에는 농약 살포 회수가 적다는 것입니다. 台灣에서 보았는데 자세히는 모르겠지만 몇 가지 효용을 함께 가진것을 適期에 뿌리고 또 될수있으면 적게 뿌리고 있습니다. 예보를 과학적으로 해서 최소한 필요한 양만을 뿌리는것입니다. 亞熱帶地方이라 우리 나라보다 벌레도 훨씬 많은데도 말입니다. 그런데 우리 나라에서는 예방을 한다고 농약을 많이 뿌리고, 農家は 農藥을 얼마나 사용했나에 따라 점수를 매긴다고 農民들은 이야기 하는데 그것은 사실인지요? 금년 3천 8백만섬의 목표달성과 관련이 있습니다.

卞奇洙 : 농약 살포회수는 앞으로 확실히 줄게 될 것입니다. 과거에는 7~8번 혹은 10번을 뿌려야 좋다고 했는데 지금은 그렇지 않습니다. 작년, 재작년의 예를 보면 그렇게 뿌리지 않아도 과거보다 기술이 고도화 되고,

新品種을 많이 재배하기 때문에 회수는 줄게 됩니다.

金範基 : 그런데 農民들은 그들이 원하는 農藥을 구입하고 싶은데 農民이 기피하는 농약이 單位組合을 통해 영농회 단위로 부락에 배정되는 경우가 있습니다. 다행히 그런 농약을 소화했으면 몰라도 그렇지 않을 경우에는 그 부락 담당자나 공무원이 문책을 받는다는 말도 있지요. 農民이 원하지 않는 農藥을 마지못해 쓰는 사례가 간혹 있습니다.

司 會 : 農民이 몰라서 하는 경우는 農民이 잘못이지만 작년에 써 보니 좋다고해서 올해도 꼭 좋을수 있다는것은 아니지 않습니까?

金範基 : 또 농민이 사야하는 農藥을 보면 일부는 단위조합에 예치되었다가 오기 때문에 시일이 많이 지난 것이 있습니다. 82年産 농약을 써야 되는데 81年産을 갖다 준다는지 말입니다. 유효기간이 82年까지 되어있다고 해도 농민들은 오래된 농약을 받으면 인상이 좋지 않을 수 밖에 없습니다

司 會 : 여러 가지 고충도 있지만 資材라든지 營農지도에 대해 農協측의 말씀을 들어 보겠습니다.

南宮玉泉(農協 새 마을 指導部次長) : 여러분의 말씀을 듣고 많이 배웠습니다. 돌아가서 충분히 검토도 하겠고, 보고를 드려서 食糧増産施策에 적극적으로 반영할 수 있도록 노력 하겠습니다. 저희 農協에서 하는 일이 자금, 자재지원, 비료, 농약지원등 食糧増産施策과 관련되지 않은것이 없습니다. 그래서 저희들도 農水産部에서 食糧増産施策이 내려오면 農協 나름대로 중심으로 해야할 것을 추려냅니다. 그러나 여러가지 사정 때문에 기술적인것은 제외하고 있습니다. 日本에서는 單位組合에 지도원들이 여러 명 있어 農村指導를 하고 있지만 우리 農協은 정원도 다 확보하지 못하고 있어 指導部長이 한사람이 指導하랴, 보고하랴, 그야말로 막중한 일을 하고 있습니다. 우리 나라도 日本처럼 單位組合의 여건이 좋아져 많은 指

導員을 두게되면 기술적인 문제도 해결되지 않나 생각됩니다.

저희들의 임무는 農水産部の 食糧増産施策을 적극적으로 받아들여 資金資材 창구로서 원활하게 食糧増産을 할수 있도록 지원하는 일입니다. 그래서 米穀増産을 위하여 適地適品種 배치라든지, 육묘기술 제공이라든지 教育的인 내용을 담아 일선에 시달 하는데, 農協자체 지원계획만을 간단히 말씀 드리겠습니다.

먼저 營農資金은 금년에는 일반목적, 특수목적에 5千억원과 자체 외상 2千억원등 모두 7千억원을 지원하는 것으로 계획하고 있습니다. 1월 30일 현재 1,276 억원을 배정하여 이미 991억원이 용자 됐습니다. 그러나 자금지원에 있어서도 막상 마을 단위로 내려가면 갈라 쓰다보니 얼마되지 않는다고 합니다. 政府財政이라든지 모든것이 넉넉하지는 않지만 公平, 公正한 지원이 되도록 노력하고 있습니다. 특히 마을 단위에서는 단위조합의 融資協議會에서 營農會別로 배정하도록 하여 영농회는 자율적으로 대상 농가에 배정하도록 하는데, 용자업무도 간소화하고, 무담보 신용대출을 원칙으로 해서 이제는 과거처럼 出資라든지 先利子控除라는 것을 절대로 못하도록 못을 박았습니다.

그다음 肥料에 있어서는 규산질 282 만톤, 석회비료 30 만톤을 適期에 확보해서 供給하도록 계획을 세웠으며 창고별, 비중별로 균형재고를 유지하도록 했습니다. 그리고 盛需期에는 無休販賣를 하기로 했고, 현지 분산 판매를 실시하여 農民의 편의를 도모하도록 했습니다. 또 비료 自律에 따른 균형시비를 지도하게 했습니다. 農藥에 있어서는 아직 확정되지 않았지만 2월말경 확정될것으로 보입니다. 이것도 營農會別로 주문 공급제를 실시할 예정인데 여의치 않지만 그렇게 되도록 노력 하겠습니다.

農機械에 있어서는 耕耘整地機種인 耕耘機는 農協에서 3만 5천대, 트랙터는 280 대, 災害 대체機種인 분무기는 4천대, 살분무기 4천 2백대, 양수기 4천대, 勞動力不足 대체機種으로서 바인다는 없고, 移秧機 2천 5백대, 脱穀機 1천 2백대등을 供給할 계획으로 있습니다. 農機械 供給體制는 農水産部 計劃에도 나와있지만 上半期에는 農機械 會社와 같이 二元化해서 하겠지만 下半期부터는 業體의 자유경쟁에 맡겨 販賣토록 하고 용

자업무만 農協에서 취급하도록 되어 있습니다. 항상 말이 많은 部品문제와 修理문제도 機械 供給時 현지에서 조작기술을 훈련시킨다든지 여러 가지 계획을 세우고 있습니다.

기타 資材 지원계획은 柔苗가 310 만톤, 잡종이 12 만 5천 상자, 種子가 14,220 톤, 벼 種子 1 만톤외에 옥수수, 맥류, 감자 種子등을 供給할 계획이 수립되어 있습니다. 資材中 P.E 필름이 1 만7천톤, P.P 포대가 1 천만장, 할죽이 2천 2백만 개로 되어 있습니다. 食糧増産指導와 支援을 위해서 農協 本部에는 1월 10일부터 11월 20일까지 상황실을 운영하고 있고 지방에는 3월 1일부터 11월 20일까지 운영하도록 문서를 내려 보냈습니다. 그리고 각 계통 사무소별로 근무조를 편성하여 근무를 하도록 했고, 人力이 부족한 單位組合에서는 당직을 겸해서 하도록 했습니다. 물론 災害時에는 별도로 하도록 했습니다.

그다음 새마을 협동조직을 통한 食糧増産 活動도 전개하고 있는데 새마을을 營農會라든지, 共同作業班, 農機械 共同利用班을 더욱 活性化해서 食糧増産活動을 전개할수 있도록 했습니다. 현재 자질이 떨어져 있는 指導部長은 진흥원등이 위탁교육하여 자질을 향상시키는 방향으로 했고 전국에 영농 정보원을 두고 있어 영농정보를 수집하도록 하여 이를 활용 하겠습니까. 또한 營農指導協議會를 邑, 面 단위에서 각 農協, 계통기관까지 확대해서 食糧増産施策을 효율적으로 추진할 수 있는 協議會로 운영하도록 했습니다. 또 對農民 弘報를 강화하기 위해 資金·資材 공급상황, 病虫害防除, 施肥등을 弘報 하도록 했습니다. 그 다음 일손 돕기를 위해 農協 本部나 地方에서 일손돕기 지원을 하도록 했고, 病虫害防除 연수회등을 政府計劃에 따라 실시하도록 했습니다. 農士培養 포스터 8만부, 食糧増産 안내문, 병충해방제 포스터 4만부 등을 4회에 걸쳐 供給하도록 해서 政府에서 施行중인 食糧増産施策에 적극적으로 호응하고, 지원하도록 계획을 세워 施行中에 있습니다. 이상 간단하게 農協에서 하고 있는 것을 말씀드렸습니다.

司會：수고하셨습니다. 農協에서 말씀하신 것중 질문이 있으면 해 주시죠.

李石柱：81年度産農藥을 원하는데 80年度産을 준다고 하셨는데 農藥의 원료는 현재 우리 나라에서 전혀 생산되지 않아 全量을 외국에서 들여오고 있는 실정입니다. 원료는 독일, 미국, 일본, 영국등지에서 주로 들어 오는데 유럽에서는 2개월, 일본은 20일 정도면 들어옵니다. 그래서 農藥業界는 農藥을 임의로 만드는것이 아니라 農水産部에서 82년도 農藥需給이 몇 톤이라고 作物別로 정해주면 그 범위내에서 원료를 들여옵니다. 그리고 그동안에 農協은 일선 農民들에게 다음해에 소요되는 品目別 農藥 신청량을 받습니다. 農協이 作物別로 소요량을 결정하고 農水産部에서 需給計劃을 결정하여 회사에 통고해주면 會社는 원료를 발주해서 生産을 시작합니다. 이렇게 하다 보면 3월에 가서야 제조회사에서 生産을 하게 되죠. 아까, 年度가 바뀐 농약을 준다고 하신데 대하여 말씀드리면 農藥이 수급 계획에 따라 농약을 산 그 당해년도에 이상 냉해라든지, 기후가 좋아서 病虫害 발생이 적었다든지 하면 작년처럼 50%정도밖에 소요되지 않고 50%는 農協에서 그냥 가지고 있습니다. 農藥은 계약에 따라서 당연히 유효기간내 팔아주어야 하는데 기상관계등으로 50%가 남아 가만히 있어서 유효기간이 1년 지나가게 되는겁니다. 農民들이 農藥을 달라고 할때 그 농약을 양주고 新年度産 農藥만 준다면 해마다 쌓이는 移越 農藥을 정부에서는 어떻게 소화하겠습니까. 이러한 점은 農民 여러분이 생각해 주셔야 할 것입니다. 또 한 가지는 아까 말했듯이 유럽은 2개월, 일본은 15~20일 정도가 걸리므로 원료를 미리 들여오지 않으면 곤란하기 때문에 農藥은 전년 가을쯤에 발주를 시작합니다. 그래서 農藥은 유효기간이 다 될때까지 쓰도록 농민들이 협조해 주셨으면 감사 하겠습니다.

農藥의 유효기간은 농약을 무제한으로 오래 들수없기 때문에 설정 한것이지 딱 날자가 되었다고 해서 당장에 그 農藥의 品質이 나빠지거나 약효가 저하 되는것은 아닙니다. 예를 들면 농약의 유효기간은 대개 2년에서 4년정도인데 農民들은 이 기간이 지나면 못쓰게 되는줄 압니다. 農振庁

에서 실험을 해봐도 알겠지만 유효기간이 5~6개월 지나도 藥効에는 문제가 없다는것을 이 자리에서 말씀 드리고 싶습니다. 日本의 경우에는 유효기간이 지나면 지난만큼 藥効가 줄어들기 때문에 값을 깎아서 농민에게 팔아요. 100원짜리가 5~6개월 지났으면 80원에 사서 쓴다든지 하는데 우리 나라에서는 아직 기술지도 보급이 잘 안되서 그렇지 기간이 한 두 달만 넘어도 약효가 전혀 없어지는 것으로 알고 있는데 사실은 그렇지 않습니다.

司 會 : 그러면 유효기간이 넘은 것은 어떻게 처리하고 있으며, 만일 再包裝을 한다면 그만큼 코스트가 높아질터인데 좋은 방법은 없습니까?

李碩柱 : 農協에서는 유효기간이 넘은것을 각사로 다시 보냅니다. 그러면 각 회사는 그것에 전부 포장을 뜯어 원료성분이 부족된 만큼 다시 넣는데 사실은 부족한것이 별로 없습니다.

司 會 : 再包裝을 하게 되면 그것도 비용이 들게 되니까 차라리 日本 처럼 해봄직도 하겠군요. 農民들을 인식시켜 유효기간이 넘더라도 95%, 90% 혹은 80%의 효과가 있다면 그만큼 싸게 파는것이 낫지 재포장을 한다면 또다시 비용이 들게 되니까요.

李碩柱 : 그 점은 허가 사항이기 때문에 저희들이 마음대로 못합니다.

司 會 : 그렇다면 政府에 강력히 건의해서 해결해야지 政府가 못하게 한다면 곤란하지 않습니까? 그래서 여러 가지 農民問題가 해결되지 않고 마찰이 생기는 것 아니겠습니까?

李碩柱 : 정부에서는 유효기간이 지난것에 대해 약효검사를 해달라고 해도 해주질 않아 저희 업자들만 항상 괴롭습니다.

司會：農民과 農藥會社와 政府와 지혜를 모아 그 문제를 조속히 해결할 수 있는 방안을 마련해 주시기 바랍니다.

금년도 食糧生産 목표인 3,800 만섬을 달성하려면 振興庁이 제일 일선에서 집을지게 되는데 米産指導과장님께서 이번 기회에 여러 시책면에서 討議가 미진한 것을 중심으로 營農에 도움이 될 말씀을 해 주십시오.

李孝近(農村振興庁 米産指導課長)：本部에서 만든 食糧増産計劃書는 더 이상 손질할 수 없을 정도로 잘되어 있지만 과연 이것을 어떻게 실천하느냐가 문제인것 같습니다. 저희들은 쌀을 量的으로 많이 増産해야겠고, 農民들은 農事를 지어 量도 量이지만 所得이 많아야 된다는 것입니다. 이 두 가지를 모두 충족시키기 위해서는 栽培 技術이 향상되어야 하겠습니다. 이러한 기술이 실천되도록 하기 위해서는 행정적으로, 또는 관련기관의 지원이 같이 이루어져야 하겠지만 増産도 하고 所得도 높이기 위해서는역시 單位面積당 生産量을 늘리고 동시에 生産費도 줄여야 합니다. 生産費를 줄이려면 農藥, 肥料代, 그리고 勞動力(人件費)이 가장 큰 절감 대상이 되는데 기술적인 면에서 볼때 이것은 상당히 줄일 가능성이 있습니다. 농약 살포회수 문제도 나왔지만 우리는 병이 나면 그 병만 보고 약을 뿌리는 경우가 많아 2~3번 뿌리는 것이 보통입니다. 日本에서는 病, 虫의 증상을 보지 않고 증상이 눈에 보이지 않을때 약을 뿌립니다. 물론 엄격히 보면 증상을 보고 뿌는것이 되겠지만 우리도 예방위주로 정기적인 同時防除를 하면 品種에 따라 3번에서 6번정도 뿌리면 防除가 됩니다. 그러나 이것이 실천되지 않고 있어 어떤 사람은 10회이상 뿌려 지나치게 과다살포하는 경우도 있습니다. 그리고 질소 비료를 지나치게 많이 쓰거나 시기적으로 誤用하는 경우도 많아 비싼 자재를 소비하면서도 결국은 손해를 보는 일이 많이 있습니다. 불필요한 살포를 하게 되면 人力면에서도 손해입니다 人力를 다른데로 투입하면 그만큼 生産도 늘어날 것이고 따라서 所得도 그만큼 늘게 되므로 技術的인 면에서 여러 가지 개선되어야 할 점이 많이 있습니다. 그렇게 하지 못하는데는 指導者의 指導力이 부족한 탓도 있을 것이고, 농민에게도 문제가 있을 것입니다.

먼저 指導員에 대해 말씀드리면 솔직히 質이 상당히 떨어져 있습니다. 과거에는 대학을 나온 사람이 대부분이었지만 지금은 학력제한이 없기 때문에 누구든지 공개채용시험을 통해 합격할 수 있습니다. 그래서 수준이 상당히 낮아졌는데 그렇다고 시험을 엄격히 보면 한 사람도 합격할 사람이 없습니다. 그래서 하는 수 없이 그중 나온 사람들을 뽑아오고 있는데 農大를 나온 사람도 있지만 대부분은 農高 출신들입니다. 그리고 農高를 나온 사람이 一般高等学校를 나온 사람보다 그 수준이 어떠한가 하는 문제입니다. 저희들이 農大나 農高를 나온 사람들과 면접을 해 보면 그들이 과연 학교에서 무엇을 배웠나 하는 생각이 듭니다. 또 학교에서 쓰여지는 교과서를 보면 이미 바뀌어졌어야 할 부분, 5년이나 뒤진 이야기들이 많습니다. 農事를 보더라도 매년 技術과 品種이 달라지고 거기에 따른 대책도 달라지는데 학교에서는 몇년전의 것을 가르치고 있습니다. 문교부에서는 책을 바꾸려면 시간과 돈이 많이 든다고 하므로 현실적으로 책을 바꾼다는 것은 어려운 일 같습니다. 학교에서 배운 사람들의 수준이 그 정도라면 이들을 데려다 指導員으로 채용하여 현지 교육과 훈련을 시켜도 문제가 있다는 것입니다. 그러나 다행히 병역특례법이 제정되어 農大출신이 올해부터 많이 들어올것으로 기대는 되지만 지도하는데 있어서는 부족한 점이 많을 것입니다.

또 農民들에게도 상당히 문제가 있습니다. 지난 80년에 日本 東北地方의 冷害상황을 시찰했을때 느낀 소감을 말하겠습니다. 자동차로 하루종일 가도 길 양쪽의 벼는 100%가 불임이었습니다. 아무리 耐病性이 강하다고 해도 그 저온에는 건달수가 없어 전부가 불임이 되고 말았습니다. 그런데도 바인더도 벼를 베는 사람도 있고 그 벼를 건과에다 말리는 사람도 있었습니다. 하도 이상해서 차에서 내려 그 벼단을 보니 여문것은 하나도 없었습니다. 동행한 시험장 재배부장에게 아무것도 없는데 왜 건과에 걸어 놓고 말리느냐고 물으니까 부장이 하는 말이 벼단속에 벼알이 들어 있을지도 모르지 않느냐, 農民들은 곡식에 대한 액착심때문에 그 일을 하는 것이라는 것이다. 우리 나라 農民가운데는 베는 샅도 나오지 않는 벼는 불질러 버리는 사람도 있을 겁니다. 물론 계산하기에 따라서는 다르지만 100%,

남의 손을 빌어 농사를 짓고 機械移秧을 할 때 3%정도 결주가 나면 補植하지 않는것이 이익이 될수 있습니다. 다른 일로 돈벌이를 한다면 몰라도 그렇지 않은데도 補植을 하지않는 사람들을 볼수 있습니다. 日本 사람들은 우리들 보다 農家事情이 윤택하지만 機械移秧을 한 다음 한, 두 포기 결주된것은 여자들이 전부 補植하고 있습니다. 그들이 못살아서 그런것이 아니라 農業에 대한 성의 때문이죠. 우리 나라 農民들도 상당히 각성해야 할것이며 특히 農業이란 정성이 없으면 안되는 일입니다. 우리는 심지어 못자리 播種을 하고 復土도 안하는데 일본 사람들은 復土를 하고 왕겨숯을 덮습니다. 그것은 왕겨숯이 검은니까 햇빛을 많이 받아 地溫이 높아져 發芽가 빨리되고 그만큼 전묘옥성이 잘 되니까 좋다는 것입니다. 그런데 우리나라는 왕겨숯은 고사하고 흙도 안덮으려고 하거든요. 흙을 안덮으면 發芽가 1주일 정도 늦게되고 또 가지런히 나지 않습니다. 아주 심하면 發芽가 되지않아 모판이 말라버립니다. 아주 심한 예는 機械移秧 育苗에 있어서 種子가 포개질 정도로 密播해 버려 가느다란 모가 되어 冷害를 받고 초기에 제초제 피해를 받는다는등 여러 가지 손해를 봅니다. 최근에는 재해가 많아져 3년동안 흉작이 들었고 작년에도 그렇게 좋은 기상은 아니었습니다. 작년에는 다행히도 영동지방 냉조풍지대만 냉해를 입었고 그의 지역은 무사했지만 전반적으로 기상조건은 좋지 않았읍니다. 그러나 시기적으로 일시적인 高溫多照가 있었기 때문에 병은 적었습니다. 그러나 앞으로 기상이 불투명한 상태이어서 우리가 공식적으로 이야기 할 수는 없는 처지지만 금년에도 최대한 안전재배를 해야할 것입니다. 安全栽培가 多收穫과 상반되는 것처럼 생각하는 사람이 있는데 사실은 안전재배를 해야 多收穫이 됩니다. 그래서 금년에도 어디까지나 安全栽培 위주로 강조되어야 할것입니다. 그래서 多收穫 시상문제와 관련하여 品種에 대한 이야기도 나왔지만 우리가 統一系 品種을 확대 보급하는데 있어서는 절대적으로適地를 엄수해야 할 것입니다. 올해는 어느해 보다도 適地선정을 강조하여 海拔 250 m 이상지방, 영동지방, 찬물이 들어가는 논, 특히 모래 땅같이 漏水가 심한 곳, 그들이 지는 논, 아주 습한 땅에는 統一벼를 절대 심어서는 않습니다. 그러한 논을 다 제외하고도 統一系 品種을 심을수 있는면적은대

체로 60 % 정도가 됩니다. 그러니까 農水産部가 책정한 50 % 수준은 適地內的 재배를 말하는 것입니다. 문제는 개별 筆地별로 適地를 엄선하여 栽培해야 하는 것인데 적지에서는 統一系를 심어야만 多收穫이 됩니다. 물론 一般系를 심어도 조정밀, 多肥栽培 한다면 다수확을 할 수도 있지만 그것은 불안정한 栽培가 될 수가 있습니다. 보편적으로 말씀드리려 統一系의 形質은 잎이 넓고, 두껍고, 쪽쪽뻗는 직립성이고, 이삭이 뻗어 올라가고, 주당 영화수가 많고하여 多收穫性입니다. 다만 低溫에 약하다는 것이 단점이라 할 수 있는데 이러한 성질을 살려서 통일벼를 60 %에 다 안심고 50 %만 심더라도, 아니 제 계산에는 40 %만 심어도 금년 3,800 만점 목표에 도달할 수 있을 것 같습니다. 통일벼를 不適地에 잘못 栽培하니까 실수를 하는 것이지 품종 자체에 결함이 있다는 것은 맞지 않는 말입니다. 금년도 増産計劃은 절대 실현 불가능한 것이 아니고 다만 農民들이 조금만 더 정성을 다한다면 무난히 달성할 것으로 보입니다. 물론 공무원들도 農民들이 그렇게 할 수 있도록 技術指導도 잘하고, 여러 가지 지원도 잘 해주어야 하기 때문에 양자 모두 책임이 있습니다. 특히 금년에는 災害에 중점을 두어 안전한 기반 위에서 재배가 되도록 해야겠습니다.

地力面에서 우리 나라 토양조건으로 봐서 지금 모래땅을 보통논으로 만들지 않고서는 항시 불안을 내포하게 됩니다. 일반적으로 모래땅은 保肥력이 약하고, 保水力도 약하다고 합니다. 그러나 保肥력이야 肥料 몇 번 더 주고 保水力이야 비가 자주오면 문제가 아니나 더 큰 일은 冷水 피해입니다. 논에 물이 고여서 햇빛을 받아 온도가 올라가야 하는데 漏水가 되어버려 水温上昇이 안돼 만성적인 冷害를 받고있는 것입니다. 이것이 개량되지 않으면 거기에서 稻熱病도 발생하여 災害가 생깁니다. 이러한 砂質畚 개량은 農土培養 10 개년 計劃事業에도 들어 있지만 10 년까지 기다릴 수가 없는 것 같습니다. 1 ~ 2 년 동안에 이 개량사업이 잘 되어야 그 다음 일이 잘 될 것입니다. 현재 1/3 가량이 不完全한 畚입니다. 이러한 논에서는 安全栽培가 어려우리라고 봅니다. 저희들도 노력을 하겠지만 農民 여러분이 정성을 기울이지 않으면 안될 것이며 착실하게 실천하도록 했으면 하는 생각입니다.

裴大漢(農業資源 開發研究所 副所長): 全北의 김희장께서 질문하신 것중 農藥問題와 관련하여 價格問題, 米價問題가 나왔고 農藥使用回數問題도 나왔는데 그것을 좀더 명확히 할 필요가 있을것 같습니다. 農藥協會에서 발간한 「농약」 2월호에 보면 農村經濟研究院이 80년에 발표한 자료를 인용한것이 있는데 1970, 1975, 1979년의 米價를 비교한 指數를 보면 70년을 100으로 했을때 75년에는 278.6, 79년에는 522.9로 되어 있습니다. 거기에 비해서 農藥價格은 75년에 193.0, 79년에 259.6이고 肥料값은 75년에 136, 79년에 405 農機具값은 75년 223, 79년 351로 나와 있습니다. 米價 책정시 生産費에 企業的인 이윤이 얼마나 나오는지 몰라도 여하튼 쌀 米價보다도 農藥이 장기적인 안목에서 볼때 상당히 낮다는 것을 이해해 주셨으면 합니다. 水稻 栽培面積은 과거 15년간 전혀 늘지 않았읍니다. 그러나 病害虫 發生面積은 15년동안 10배가 늘었고 防除面積은 5배 늘었습니다. 거기에 비하여 農藥 使用量은 3배, 使用回數 3배, 효과는 5~9배까지 올라가고 있고 米穀의 생산량은 2배 이내에 멈추고 있습니다. 거기에 비해서 病虫害에 의해 일어나는 피해는 과거 15년 동안 1/3로 줄었다는 것을 참고해 주시고 農藥값, 肥料값, 農機具값등이 農業生産에 미치는 특히, 生産費가 農家所得에 미치는 문제를 좀 더 정확하게 파악하시면서 앞으로 營農에 참고해 주시기 바랍니다.

金昌源(새마을 營農技術者 中央會長): 오늘 이러한 協議會를 갖게 해주신 데 대해 農民의 한 사람으로 감사 드립니다. 食糧增産을해야하는 농민으로서 좋은 의견을 내놓지 못하는 것을 송구스럽지 생각합니다. 사실 農業이란 대단히 어려운 작업이 아니겠습니까? 지금 미산과장께서도 農民이 할일이 많다고 하셨는데 제 생각에는 農事의 主體는 指導所 職員이나 일선 공무원이 아니고 바로 農民이기 때문에 農民을 잘 誘導하고, 啓導해 나가야 食糧增産을 할 수 있다고 봅니다. 사실 오늘 이자리에도 農民代表 몇 사람이 나와서 이야기를 했지만 어려운 일이나 하고싶은 이야기는 다 못하고 있습니다. 또 農民이 생각하기에 부탁을 드려도 실천되지 않을것은 이야기를 하지않고 있습니다. 따라서 農政當局이나 기타 기관에서는 이 점

을 충분히 감안하여 뒷받침 해주길 부탁 드립니다.

또 전국의 우리 회원이 5만명 정도이고 4700명 정도의 명예 농촌지도 소장, 지소장, 지도사가 있는데 이들이 전부 장관으로부터 임명장을 받고 있는 이상 이 어려운 시기에 農政當局에서는 이 사람들을 잘 활용하여 82년도에는 소기의 목적을 달성 할 수 있도록 저희 會의 사기를 진작시켜 주셨으면 감사하겠습니다.

司 會 : 과거에는 마을 단위로 농사개량구락부도 있었고, 作目班도 있었는데 몇 년전에 그것이 통합되었죠? 지금은 어떤 상태에 있습니까? 그리고 과거에는 農民들이 자발적으로 뜻있는 사람들을 모아 뭔가 잘해 보려고 상당히 활발한 활동을 전개한 일이 있었는데 그런것은 지금 어떻게 되어 있습니까?

李孝近 : 과거에는 농촌개량구락부 등 여러 단체가 있었는데 몇 년전 정부에서 통합해 營農會라는 명칭으로 바꾸었습니다. 營農會를 조직할 때 農村指導所에서 주관했고 지원관계는 農協에서 하기로 되어 있었습니다. 그러나 현재의 營農會는 그런 방향으로 가고있지 않습니다. 왜냐하면 農協이 營農會長을 선출하여 有給制로 하고 있어 사실상 指導所와는 거리가 멀어 제가 보기에 指導하는데 상당히 애로가 많은것 같습니다. 행정적으로 어떠한 연락이 온다든가 무엇을 시킬때 행정적인 일만 너무 앞서고 있어 사실상 지도관계는 좀 뒤떨어 지지 않느냐는 생각입니다.

司 會 : 農民들이 앞으로 해야할 일이 많다고 하는데 農民들이 가지고 있는 에너지를 좀더 생산적이고, 자발적으로 이끌어 3,800만섬을 달성할 수 있도록 政府에서는 이미 있는 방침을 개정할 필요성이 있는지에 대해 진흥청 李 과장님께서 한 말씀 해 주시죠.

李孝近 : 과거에는 소위 학습구락부라고 해서 農事改良 구락부, 4-H 구락부 : 生活改善구락부 등이 있었지만 農協의 作目班이라는 것과 합하여 營

農會라는 것으로 통합되었습니다. 솔직히 말씀드리려 새마을 營農會는 학습 구락부는 아니고 다분히 다른 업무가 더 많은 조직체로 바뀌어져 버렸습니다. 그래서 과거의 학습구락부 역할을 사실상 거의 못하고 있는 실정입니다. 또한 우리가 71년 통일벼 확대 보급과 더불어 集團栽培가 많이 보급되었는데 최근에 와서 이 集團栽培가 한참 성행하다 사회가 발전하면 점차 없어지기 때문입니다. 따라서 이제는 移秧機를 중심으로 하는 機械化 協同營農組織을 육성 강화하여 과거의 集團栽培가 공동작업 중심의 집단 재배 이었다면 이제는 機械化를 중심으로 하는 協同營農會로 발전해 나가야 할 것입니다. 지금 우리가 4조식 移秧機 한대를 갖고 10~15정보를 심으라고 한다면 불가능하기 때문에 機械化를 위해서는 營農會가 조직되어야 합니다. 작년에는 移秧機 한대당 7.2정보밖에 작업을 못했는데 최근에는 귀찮다는 이유로 자기것만 하고 남의것은 해주지 않는 경향도 있어 그나마 4~5정보밖에 移秧하지 못하는 경우도 있습니다. 앞으로도 이러한 경향이 더 많이 발생할 것으로 보여 특히 기계화를 중심으로 하는 協同營農組織이 조속히 재정비 되어야 할것 같습니다. 모내기할 때 조직이 없을 경우 機械로 하려고 하면 누구든지 빨리 먼저 심으려고 하는데 機械는 1대가 하루에 1정보밖에 못심으므로 늦게 심은 사람은 기계를 이용하지 않을 것입니다. 1주일 정도에서 그쳐 7정보밖에 심지 못합니다. 그러나 협동이 잘되면 晩生種은 먼저 심고 그다음에 中生種을 심고 早生種은 늦게 심어도 되며, 바인더나 콤팩트를 이용 할때도 早生種은 먼저 수확하고 中生種, 晩生種은 나중에 수확한다면 가동일수가 20일은 될 수 있어 加動率을 높일 수 있습니다. 늦게 심더라도 密植을 하면 상자 부담은 공동이니까 서로 이익을 취할 수 있고, 또 조직도 잘될 수 있습니다.

司 會 : 그러면 自生的으로 農民의 단독작업에는 제약이 있습니까?

李孝近 : 제약은 없지만 새마을영농회로 통합하도록 조치는 되어 있습니다.

司 會 : 통합을 어떻게 하며 통합을 하기 싫다면 어떻게 합니까?

李考近 : 農協에서 각 마을마다 둔 作目班의 역할은 영농資材와 資金의 심부름을 하는 것인데 그 일을 하는 사람들은 지금도 수당을 받고 있습니다. 그런 기구를 농사개량구락부와 합쳐야 한다고 해서 합친 것이 지금의 營農會인데 지금은 돈이나 물자를 주고하는 역할외에는 하는일이 없습니다. 그러므로 별도의 組織을 또 만든다면 마을 單位의 조직이 二元化되고 多元化되니까 지금 당장에 조직을 만들기 보다는 機械化營農會를 조직해서 발전시키는 것이 현시점에서 좋을 것 같습니다.

司會 : 農民들이 필요에 의해서 무엇을 만들때는 스스로 할 수 있는것은 허용해 주고 건설적인 것이라면 지원해 주는 자율성과 다양성을 키우도록 분위기와 여건을 만들어 주는것이 필요하이라고 봅니다. 누가 무엇을 해 보려 해도 통합이다, 규제다 하면 누가 하겠습니까. 地力 문제, 病虫害防除問題, 農機具共同利用으로 生産費를 절감하는 문제, 增産努力, 쌀 增産團地를 만드는것 등등의 운동을 農民들이 자발적으로 벌일수 있는 분위기를 조성해 주고 장려해야 할 것입니다. 물론 부락에 따라 다르겠지만 A라는 명칭도, B라는 명칭도 있어 복잡하겠지만 다 허용해 주는것이 필요하지 않겠느냐는 겁니다. 제가 유럽이나 좀 잘산다는 나라에 가 보면 그런 자율성이 있어야 창의성도 있고 창의성이 있어야 힘이나 일을 더 하게 되는 것을 보았습니다. 아까 일본 사람들이 아무것도 없는 벼포기도 몇알의 벼알을 건지기 위해 바인더로 베고 있다는 것도 이러한 자세에서 나오는 것이라고 봅니다. 그러므로 농사는 가만히 앉아서도 官이하라는 대로 따라가면 되고, 안 따라가면 재미없고 하는 분위기가 되면 3,800 만섬 달성도, 農民이 잘 살기도 어렵지 않을까 생각됩니다.

아까 장려 品種을 왜 통일계에 국한시키느냐, 그렇다면 200 m이상고지에 사는 農民은 처음부터 제외되는 것이 아니냐는 의견이 나왔습니다. 이번 協議會를 통해서 건의한대로 장려 품종을 統一品種에 국한시키지 않기로만 해도 오늘의 農政協議는 큰 의의가 있다고 봅니다.

오늘 여러분께서 말씀해 주신것은 增産을 담당하는 行政機關이나 지도기관, 연구기관, 資材 供給機關에 좋은 참고가 되었으리라 믿고 있습니다.

그래서 앞으로도 서로 의견을 교환하고 서로 의사를 소통하는 기회를 관계 기관에서 많이 마련해 주었으면 합니다. 그리하여 우리가 더욱 잘 살고, 農村을 復興시키며 국민에 대한 食糧 安定供給이라고 하는 農業人의 책임을 다해야 할 것입니다.

장시간 좋은 말씀을 해주신 여러분에게 감사의 뜻을 표합니다. 이것으로 회의를 마치겠습니다.

附錄 1

開 會 辭

立春도 지나고 이제 곧 農村의 일손이 바빠지는 봄이 머지 않았읍니다. 이처럼 農村의 營農活動이 본격화되는 시기를 앞두고 農水產部와 農業關係機關 및 團體 그리고 특히 農民代表 여러분을 모시고 1982年度 「食糧增產 施策에 관한 協議會」를 갖게 되었음을 뜻깊게 생각하며 참석자 여러분을 진심으로 환영합니다.

발족 4주년이 되는 韓國農村經濟研究院은 基幹農業 내지는 農村開發 문제에 관한 研究를 추진하고 있는 만큼 각 研究事業에 관해 외부 전문가와 農水產關係當局과 빈번한 政策協議會를 가져왔습니다. 그러나 오늘 協議會는 우리 農村에서 營農技術 개선과 발전에 선도적 역할을 담당하고 있는 새마을 營農技術者 中央會와 각도 聯合會 會長團이 農民代表로 참석하고 있어 이제까지의 協議會와는 다른 각별한 의미를 갖고 있습니다. 새마을 營農技術者들은 모두가 自願指導者로서, 우리 農村의 旗手로 일해 왔으며 農村發展에 지대한 기여를 해왔습니다.

따라서 82年度 食糧增產施策의 효과적 수행 방안을 모색하는 오늘 協議會는 政府側과 農民들의 의견을 한 자리에서 동시에 들을 수 있을 뿐만 아니라 서로간에 솔직한 의견 교환을 통해 食糧增產에 관해 최선의 방안이 마련될 수 있을 것으로 기대합니다.

주지하시는 바와 같이 오늘날 우리 農村은 轉換期的인 각종 어려운 문제에 부딪쳐 있습니다. 그중에서도 가장 중요한 것은 營農技術의 괄목할 만한 발전에도 불구하고 農村이 상대적으로 뒤지고 있으며 그로 인해 農村住民들은 營農意慾에 상당한 영향을 받고 있다는 점입니다. 그러나 1987년 主穀의 自給이라는 大前提는 우리에게 막중한 責務를 부여하고 있습니다. 主穀뿐만 아니라 가능한 최대한의 農產物에 있어 우리

는, 自給 기반을 갖춰야 하겠습니까. 主穀의 自給 달성은 農業 그 자체에서 보다는 國家安保와 國民生活 安定이라는 측면에서 결코 뒤로 밀릴 수 없는 시급한 과제입니다. 우리는 흔히 우리 經濟의 安定條件으로서 석유를 비롯한 工產品 原資材와 國際金融의 安定化에 관해 이야기합니다. 그것은 70年代의 오일 쇼크와 지난해의 國際 高金利에 따르는 빠져린 경험의 탓으로 생각됩니다. 그러나 최근의 폴란드 事態가 시사하고 있듯이 食糧의 안정적 확보 역시 石油와 外資 못지 않는 중요한 經濟安定 조건입니다. 이 점은 國際穀物 需給展望에 비추어 보더라도 마찬가지입니다. 지난해의 世界穀物作況은 전반적으로 호조였으며, 올해도 소련에서 異狀氣溫이 계속되고 있는 것을 제외하고는 대체로 양호한 것으로 생각됩니다. 그러나 長期的인 農產物 需給展望은 결코 낙관할 수만 없는 형편입니다.

OECD 農業委員會는 최근 「世界 農產物 市場 및 農業政策」이라는 보고서에서 先進國들의 農業技藝 축소, 國際 農產物 市場에서 소련의 不時 大量購賣로 인한 파동, 高金利과 경직적인 石油價格 등으로 인해 세계 農산물 需給展望은 장기적으로 극히 불투명하다고 말하고 있습니다. 그리고 영국의 세계적 植物學 권위자 도널드 보울터 교수는 漸增하는 世界 食糧 需要를 충족시키기 위해서는 금세기말 이전에 제 2의 農業革命을 실현시켜야 할 것이라고 주장한 것으로 外信은 전하고 있습니다. 말하자면 우리는 세계적으로 「食糧쇼크」라는 위협에 다가가고 있다고 할 수 있겠습니다.

이러한 상황에서 主穀을 自給할 수 있는 기반을 다져야 하겠다는 것은 너무나 당연하다고 할 수 있겠습니다. 自給基盤의 성취에 있어서 일차적인 과제는 生産擴大입니다. 그러나 이 문제는 단순한 生産增大 만으로는 미흡합니다. 왜냐 하면 開放經濟學에서는 外國 農產物과의 경쟁을 외면할 수 없기 때문입니다. 따라서 自給이란 보다 경쟁적인 값으로 많은 量을 生産하는 것을 의미하며 이를 달성하기 위하여는 營農技術革新을 통한 生産費 절감을 必須條件으로 하고 있습니다. 農村이 상대적으로 뒤지고 있는 현재의 상태를 극복하는 길은 根本적으로 農業生

産基盤의 확충과 生産費 절감을 통한 生産性 向上에 있지 않나 생각합니다. 물론 우리 農民들이 혼자 힘으로 그렇게 하기는 어려울지 모릅니다. 政府의 적극적인 支援이 필요한 것입니다. 그러나 “하늘은 스스로 돕는자를 돕는다”는 옛말과 같이 우선 우리 農民들이 그렇게 노력해야 하겠습니다.

이러한 大前提 아래 오늘 協議會에서는 올해 食糧増産에 의해 農民을 代表하는 새마을 營農技術者 中央會側과 政府 및 農業關聯機關과 團體任員 여러분들 간에 진지한 討論이 있기를 기대합니다. 감사합니다.

1982 년 2 월 10 일

韓國農村經濟研究院長 金 甫 炫

附錄 2

參加者 名單

司會：金 東 熙（韓國農村經濟研究院 副院長）

農水產部

農產局長	朴	正	潤
米產課長	金	東	益
酪農課長	李	起	福
菜蔬課長	金	允	善

農業關聯機關 및 團體

農 村 振 興 庁	米產指導課長	李	孝	近
農 協 中 央 會	새마을指導部次長	南	宮	玉 泉
農 地 改 良 組 合	課 長	李	康	世
農 業 工 業 協 會	常 務	李	碩	柱
韓國農機具工業協同組合	營 業 部 長	孫	洛	律
韓國農業資源開發研究所	副 所 長	裴	大	漢

農民代表

새마을 營農技術者 中央會

中 央 會 長	金	昌	源
江原道聯合會長	金	洙	明
忠北道聯合會長	卞	奇	洙
忠南道聯合會長	白	光	鉉
全北道聯合會長	金	範	起